2026年度中期標準化戦略

専門委員会	
【ICT活用アプリケーション】	
1	マルチメディア応用専門委員会
2	コネクテッド・カー専門委員会
3	BSG専門委員会
4	IoT・スマートシティ専門委員会
【プラットフォーム】	
5	AI活用専門委員会
6	セキュリティ専門委員会
7	企業ネットワーク専門委員会
【プロトコル・NW管理・品質】	
8	信号制御専門委員会
9	番号計画専門委員会
10	網管理専門委員会

2026年度中期標準化戦略

専門委員会	
【アーキテクチャ】	
11	Network Vision専門委員会
12	IOWN　GF専門委員会
13	モバイル専門委員会
【トランスポート・アクセス・エリアNW】	
14	IoTエリアネットワーク専門委員会
15	伝送網・電磁環境専門委員会
16	アクセス網専門委員会
17	光ファイバ伝送専門委員会

一般社団法人
情報通信技術委員会

マルチメディア応用専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	マルチメディア応用専門委員会	1/3

企画戦略委員	相川　慎一郎（富士通）	登録委員数	35委員（14会員）
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長：山本秀樹（OKI）、副委員長：芹沢昌宏（NEC）	担当するSG・WP等	ITU-T SG21

活動の目的・意義・めざすゴール

1. ITU-T SG21で扱っているマルチメディアやデジタルサービスに関するテーマについて標準化を行う委員会。ITU-T SG21会合の対処方針や提出寄書の審議をこの委員会で行う。審議対象には、TTC内に対応するSWGや専門委員会の無いSG21の課題やSG21全体に関するものも含む。現状、電子情報健康管理SWG、アクセシビリティSWG、ILE-SWG、マシンビジョン-SWGの4つのSWGから構成される。
2. SG21の課題にとらわれず、TTCの会員様からの新しいニーズで上記にマッチしそうなものは積極的に新SWGやアドホックを作り標準化推進の間口を広げる。SG21の既存課題にマッチしていなければ新課題の提案につなげる（例：メタバース標準化、フィジカルAIのマルチメディア側面）。
3. 標準の提案は、ITU-Tに限らず、TTCの国内標準やASTAP（Asia Pacific Telecommunity Standardization Program）を含む。
4. SG21の課題のうち、旧SG9（ケーブルテレビ関連）の課題は対象外（Q14～Q22）

活動する上での課題（人材面や運用面での課題を含む）

1. 既存のSWGに関連するテーマは、各SWGのページに記載。
2. SG21の以下の課題(a)～(d)は関連するTTCのグループとの連携を深め、SG21への寄書の国内寄書審議の取りまとめは本委員会で行う。以下では、TTCグループ名を括弧の中に記載。
   - (a) 課題5　AIによるマルチメディアアプリケーション（AI活用専門委）
   - (b) 課題12　分散電子台帳技術とeサービス（セキュリティ専門委）
   - (c) 課題10　車載マルチメディア通信、システム、ネットワーク及びアプリケーション（コネクテッドカー専門委）
   - (d) 課題9　超臨場感通信・xR（業際WP メタバース標準化推進連絡会）
3. 議論が進む車載マルチメディアや自動運転支援、新規提案のメタバース等に対する国内の情報共有、対処検討を迅速に進めること。

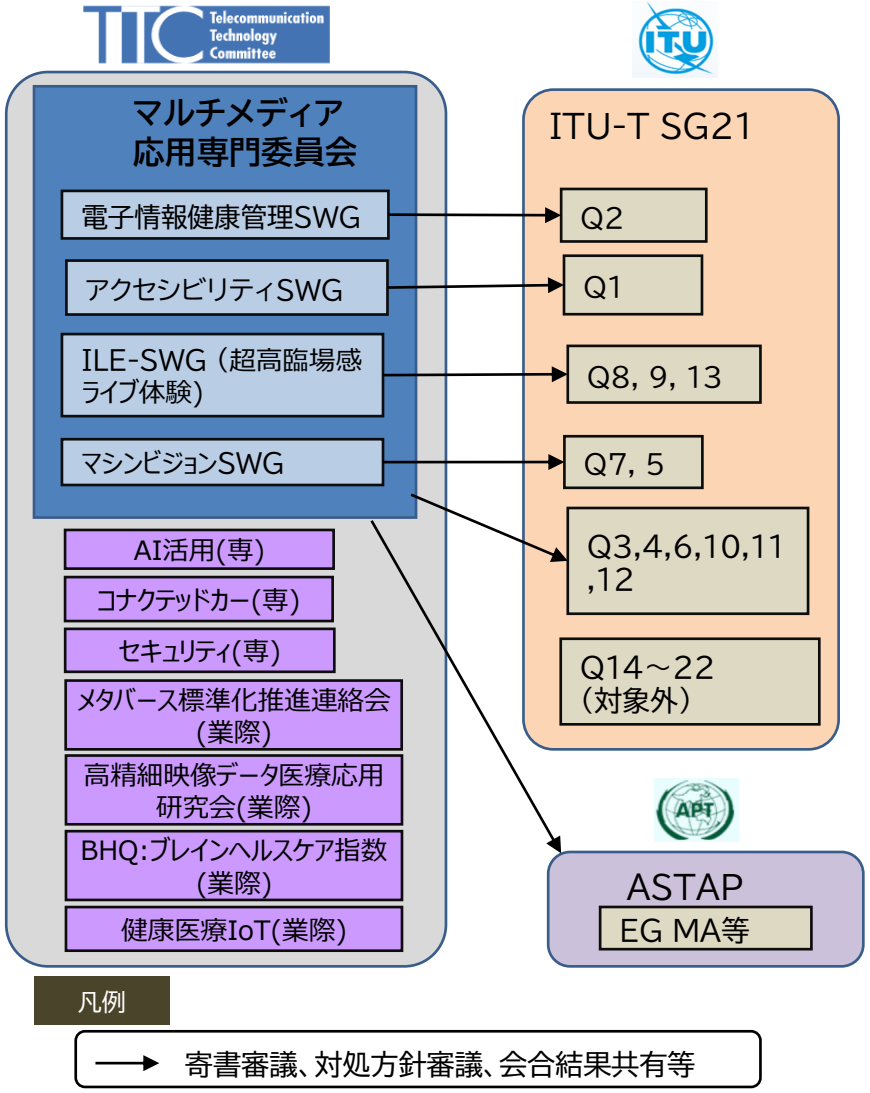
関連のSDGsゴール

標準化方針

各SWGのページに記載

国内外の標準化団体等の動向

各SWGのページに記載



中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	マルチメディア応用専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	国内の民間団体の検討結果等に基づき日本企業の海外展開に向けた標準獲得のため、ILE、アクセシビリティ、電子情報健康管理、マシンビジョンに関する国際標準化団体アップストリーム23件（ITU-T寄書19件、ASTAP寄書4件）を実施。国際標準化動向の情報提供のために、国内向けに、セミナー3件を実施。
関連する専門委員会または外部組織とその内容	SG21の以下の課題（a）～（d）は関連するTTCのグループとの連携を深め、SG21への寄書の国内寄書審議の取りまとめは本委員会で行う。以下では、TTCグループ名を括弧の中に記載。 （a）課題5　（Q5）　AIによるマルチメディアアプリケーション（AI活用） （b）課題12（Q12）分散電子台帳技術とeサービス（セキュリティ） （c）課題10（Q10）ITS（コネクテッドカー） （d）課題9（Q9）　超臨場感通信・xR（業際WP メタバース標準化推進連絡会）

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	10件程度	19件（SG21）	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG21会合：10月6～17日@ジュネーブ ASTAP37：4月ごろ（詳細未定）	ASTAP37：4月参加 ITU-T SG21会合：10月参加 ITU-T SG21 WP2,4会合：7月参加	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	各SWGで設定	該当なし	
	TS/TR/SR	各SWGで設定	該当なし	
③ ダウンストリーム	数	各SWGで設定	該当なし	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	各SWGで設定	3件（共催含） ・（7月）電子情報健康管理SWG ・（7月）アクセシビリティSWG ・（11月）電子情報健康管理SWG	
	記事投稿、講演会	適宜SG会合の結果報告、ドキュメント作成、ダウンストリームの概要をTTCレポートに寄稿する。	TTCレポート冬号：SG21会合報告	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	マルチメディア応用専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	・国内の民間団体の検討結果等に基づき日本企業の海外展開に向けた標準獲得のため、各SWGに関する国際標準化団体アップストリームを推進。 ・国際標準化動向の国内向け情報を提供（セミナー、ダウンストリーム標準の展開）
新テーマ	• SG21下に「フィジカルAIのマルチメディア側面（仮称）」のフォーカスグループ設立の動きがある。動向を把握し適宜対応する。
関連する専門委員会または外部組織とその内容	SG21の以下の課題（a）（b）（c）は関連するTTCのグループとの連携を深め、SG16への寄書の国内寄書審議の取りまとめは本委員会で行う。以下では、TTCグループ名を括弧の中に記載。 （a）課題5 （Q5） AIによるマルチメディアアプリケーション（AI活用） （b）課題12（Q12）分散電子台帳技術とeサービス（セキュリティ） （c）課題10（Q10）ITS （コネクテッドカー） （d）課題9 （Q9） 超臨場感通信・xR（業際WP メタバース標準化推進連絡会） ※SG21の本会合前には旧SG9：CATV協会（技協）と寄書情報/対処方針を相互チェック/情報共有（総務省方針）

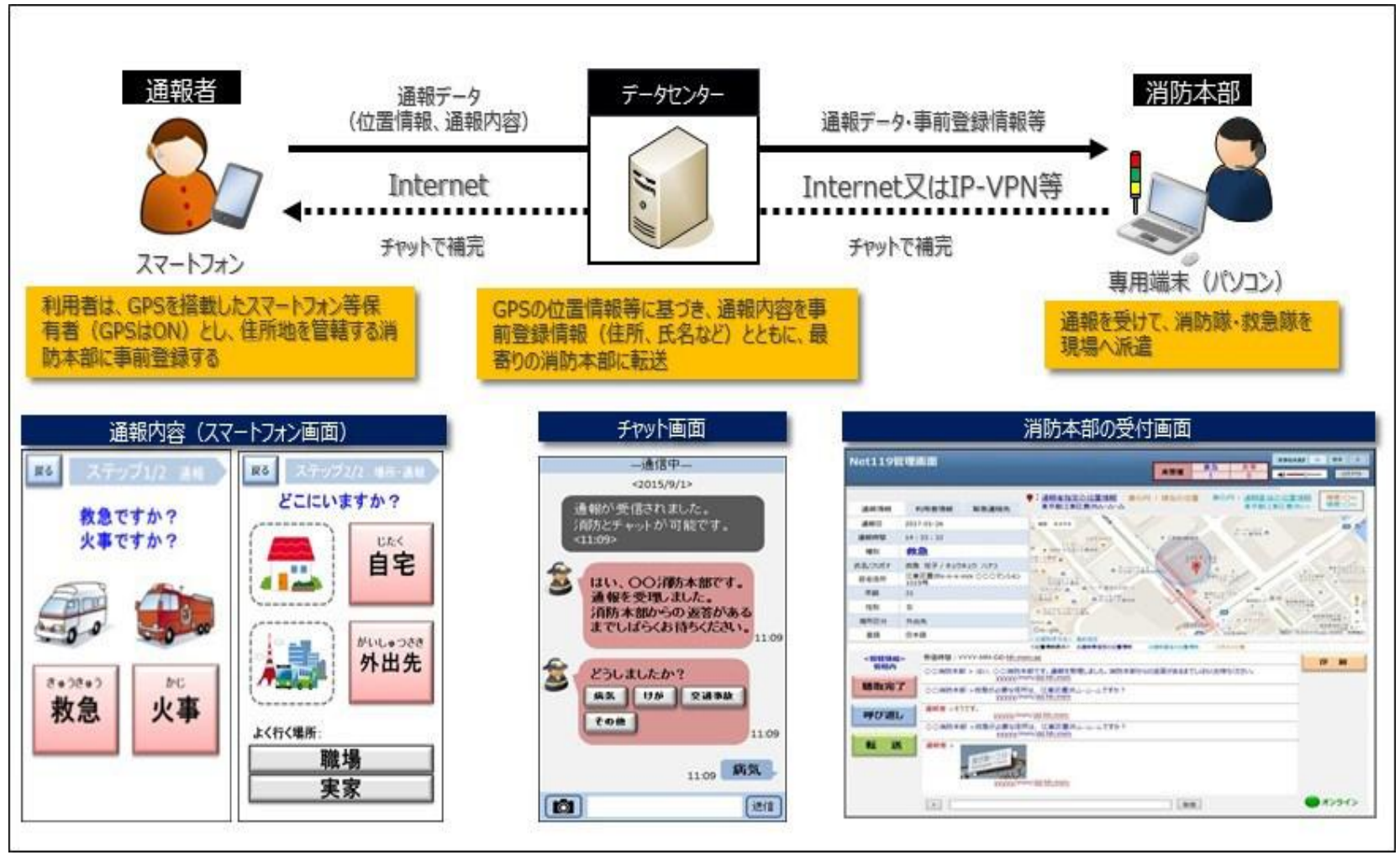
主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	10件程度	-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG21会合：7月@ジュネーブ ASTAP-38：4月（バンコク）		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	各SWGで設定	-	
	TS/TR/SR	各SWGで設定	-	
③ ダウンストリーム	数	各SWGで設定	-	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	各SWGで設定		
	記事投稿、講演会	適宜SG会合の結果報告、ドキュメント作成、ダウンストリームの概要をTTCレポートに寄稿する。		

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	アクセシビリティSWG	1/3

企画戦略委員	相川　慎一郎（富士通）	登録委員数	9委員（4会員）
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	リーダー：新井英樹（OKI）	担当するSG・WP等	ITU-T SG21　Q1
活動の目的・意義 ・めざすゴール	• 聴覚障がい者や視覚障がい者対策として、バリアフリーな社会のために必要なアクセシビリティの標準化は重要である。 緊急通報システムなどはその一例であり、一刻も早く世の中に広く普及させることが大切であり、アクセシビリティ関連の標準化の意義は大きい。	活動体制の図解 （専門委員会/SWGと対応するSG/技術トピックス、関連する団体等） 次ページ参照	
活動する上での課題 （人材面や運用面での課題を含む）	活動活発化のための、関連する新たな検討項目の発掘とメンバーの拡充		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	• Net119 の共通電文仕様の維持管理 • リレーサービスに関する標準化検討 （緊急通報への接続要件及び IF を検討し、標準化を推進する） • 情報アクセシビリティ関連の標準化の検討 • アジア標準の策定可能性の検討 • 視覚障害者向けの音声ナビゲーション F.921 のダウンストリーム • 電話リレーサービス F.930 のダウンストリーム		
国内外の標準化団体等の動向	• WHOや世界ろうあ者連盟（WFD）などにおいて、健康で安心できる社会を ICT によって支えるための標準化 • ITU-T SG21：デジタルインクルージョンのためのマルチメディアシステム、サービス、アプリケーションのアクセシビリティに関する標準化 • ITU-D SG1：特に障碍者にとって包括的なコミュニケーションを可能にする通信/ICTアクセシビリティに関する開発支援		

Net119のシステム構成例



中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	アクセシビリティSWG	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	Net119のサービス普及を側面からサポート（相互接続試験の場所提供など） ITU-T SG21のアクセシビリティに関する寄書調査、問題提起
関連する専門委員会または外部組織とその内容	

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件程度	0	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG21会合：10月	ITU-T SG21会合：10月 ITU-T WP1/21, WP2/21, WP4/21：3月（予定）	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件	0件	
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：1回 TR：0回	TS制定：0 TR制定：0	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	マルチメディア応用専門委員会のセミナーに協力する	TTCオンラインセミナー「マルチメディアのアクセシビリティに関する 最新標準技術動向2025」開催（7/25）	
	記事投稿、講演会			

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	アクセシビリティSWG	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	Net119 のサービス普及を側面からサポート（相互接続試験の場所提供など） 特にアクセシビリティの社会課題解決に向けた ITU-T SG21 のアクセシビリティに関する寄書調査、問題提起など
新テーマ	
関連する専門委員会または外部組織とその内容	

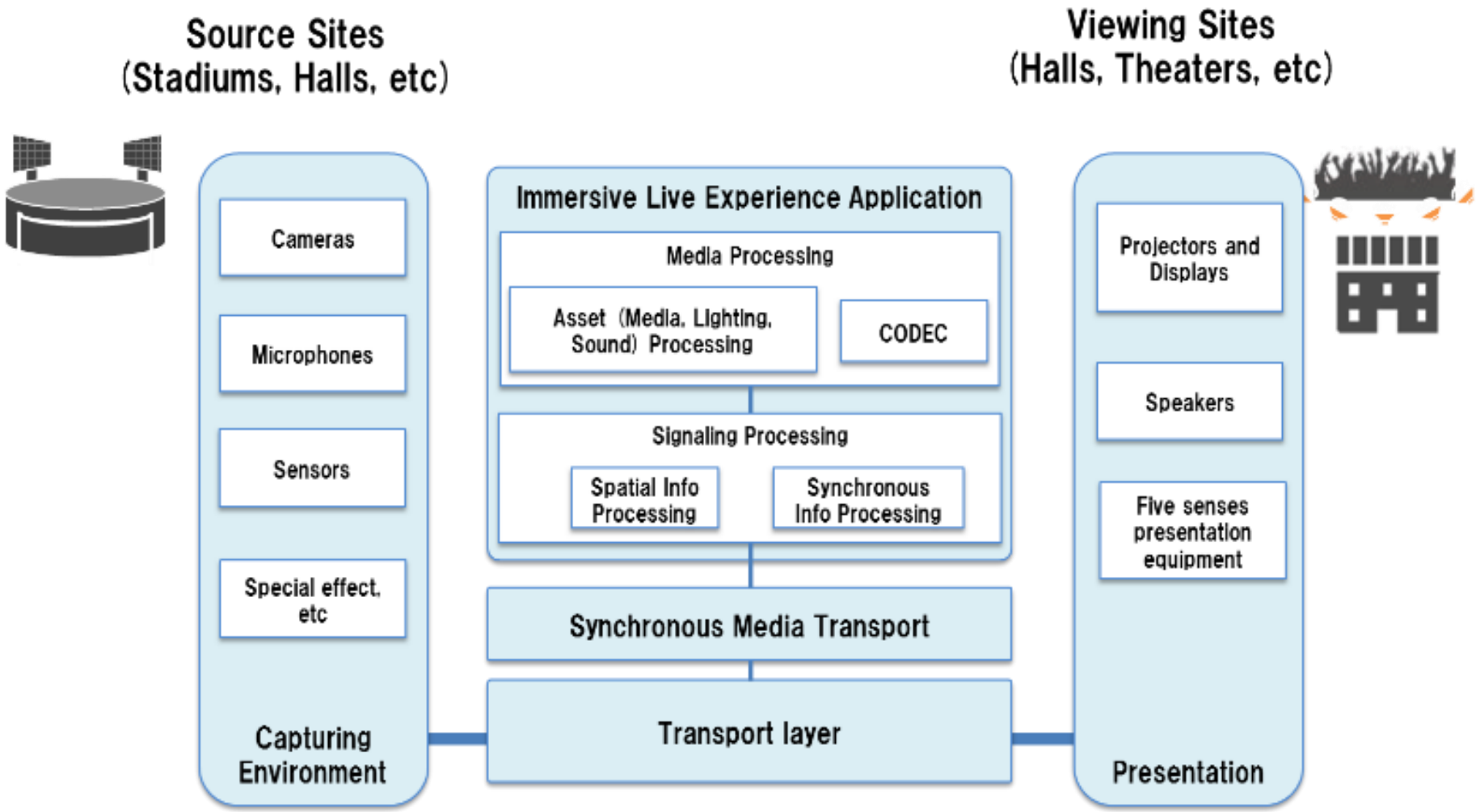
主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件程度	-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG21会合：7月		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：1回 TR：0回	TS制定： TR制定：	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	（未定） その他、マルチメディア応用関連のセミナーの機会があれば協力する		
	記事投稿、講演会	TTCレポート		

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	ILE-SWG	1/3

企画戦略委員	相川　慎一郎（富士通）	登録委員数	18委員（8会員）
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	リーダ：長尾　慈郎（NTT）	担当するSG・WP等	ITU-T　SG21　Q8, 9, 13
活動の目的・意義 ・めざすゴール	• 超高臨場感ライブ体験（ILE）技術をグローバルに啓蒙、普及することを目的として、国際標準化を検討する。 • 日本のIPTVサービスで採用されている方式を基にした国際標準への反映を目的として、IPTV（IP放送、映像配信、VOD）に関するITU-T SG21関連の標準化活動を実施する。また、国際標準との整合性を確認、確保すべく、IPTVに関わる国内外活動（ASTAP、IPTVフォーラム、DSC、W3C等）の情報収集も行う。 • メタバース標準化推進連絡会とも連携し、メタバースの国際標準化を検討する	次ページ参照	
活動する上での課題 （人材面や運用面での課題を含む）	• 総務省および国内仕様団体と連携・協調した国際標準化 • 国内仕様化団体との整合性を重視し、ILE、IPTVおよびデジタルサイネージに関して相互接続や技術・サービスの普及に必要となる勧告についてITU-Tへアップ/ダウンストリーム		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	• 他団体との標準化連携を進める。 • ILEに関する国際標準の必要性を啓蒙し、IPTV及びデジタルサイネージに関するサービス市場の安定的成長と、会員それぞれの国内外におけるビジネス拡大に寄与するため、国内仕様とITU-Tを中心とした国際標準化の整合性を確保するとともに、先駆的サービス実現の観点からITU-Tでの勧告化に貢献する。 • 国内のコンセンサスの場としての活動を維持強化する。国内ビジネスの展開に役立つ「ダウンストリームすべき勧告」について検討する。 1. ITU-Tにおける勧告体系の観点から、必要な勧告案に対するコンセンサスの連携強化と実効性のあるアップストリーム活動 2. 国内既存サービスとの整合性確保と新サービス対応 3. ビジネス展開に資するダウンストリーム		
国内外の標準化団体等の動向	• MPEG、DVB、W3Cで符号化やVR/AR向けデバイスAPIの標準化等。 • ISOで触覚に関する標準化。DSCにて、デジタルサイネージに関する各種ガイドラインを整備。 • 人間拡張コンソーシアムにおいて低遅延で感覚を伝送し臨場感ある体験の実現を検討。 • IPTVフォーラムにおいて、IPTVの4K8K対応について規格化。		

超高臨場ライブ体験フレームワーク



中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	ILE-SWG	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	• 会員企業のビジネスメリットのある国際標準化を推進することとし、新サービスやグローバル展開に向けたアップストリーム活動を継続、国内外への普及の観点から必要に応じて勧告を日本主導で整備 • メンバ間でのILEやメタバースに関する相互理解を深めるため、メタバースを含むイマーシブサービスの事例紹介等をSWGで実施 • セミナー開催による普及促進や、連携強化のための合同会合の開催等を検討 • 情報規格調査会、IPTVフォーラム及びDSCとの連携を継続 • 会員企業の要望に応じてビジネス展開に資するダウンストリームを継続検討
関連する専門委員会または外部組織とその内容	

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	10件程度	-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG21会合：1月 – 8件 ITU-T SG21会合：10月（仮） – 5件 ITU-T TSAG会合：5月 - 0件 ASTAP：---------- 0件	ITU-T SG21会合：1月 – 7件 ITU-T Q8/21中間会合：6月 – 9件 ITU-T SG21会合：10月 – 7件 ITU-T Q8,Q13,WP4/21中間会合：3月 – 5件（予想）	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　1回 TR：　0回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	マルチメディア応用専門委員会のセミナーに協力する		
	記事投稿、講演会			

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	ILE-SWG	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	• 会員企業のビジネスメリットのある国際標準化を推進することとし、新サービスやグローバル展開に向けたアップストリーム活動を継続、国内外への普及の観点から必要に応じて勧告を日本主導で整備 • メンバ間でのILEやメタバースに関する相互理解を深めるため、メタバースを含むイマーシブサービスの事例紹介等をSWGで実施 • セミナー開催による普及促進や、連携強化のための合同会合の開催等を検討 • 会員企業の要望に応じてビジネス展開に資するダウンストリームを継続検討
新テーマ	
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 情報規格調査会、IPTVフォーラム及びDSCとの連携を継続

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	10件程度	-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG21会合：7月（仮）－ 5件 ITU-T Q13/21中間会合：11月 － 1件 ITU-T Q8/21、WP4/21中間会合：12月 － 5件		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS： 1回 TR： 0回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	• 日本から提案してきたILE関連の勧告（FT、AR、3DIT）が完成予定であり、そのプロモーションを兼ねたセミナなどの計画を検討する • その他、マルチメディア応用関連のセミナーの機会があれば協力する		
	記事投稿、講演会			

中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名	マシンビジョンSWG	1/3

企画戦略委員	相川　慎一郎(富士通)	登録委員数	9委員(3会員)
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	木浦 幸雄(JIIA)	担当するSG・WP等	ITU-T SG21 Q5,7
活動の目的・意義 ・めざすゴール	• 画像/ビデオによる視覚検査と欠陥検出、位置調整と測定、製品の識別・分類・追跡などを行うマシンビジョン(Machine vision) 技術をグローバルに啓蒙、普及することを目的として、国際標準化を推進する		
活動する上での課題 (人材面や運用面での課題を含む)	• 現在JIIAからの登録委員は2名、陪席で5名で対応中。下記中期展望を見据えた活動を推進するためには、引き続きリソースの拡充が必要。 特に (1)MVを扱う課題が分散している(Q5,7,9/SG21)ため、追随等に時間がかかる (2)新規作業項目提案の経験が不足している(対応できる委員の不足)		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	• マシンビジョンに関する国際標準の必要性を啓蒙すべく寄書提案などを行い、作業項目や勧告草案の充実を図る。 具体的には、マシンビジョン工業規格「OPC-Machin Vision companion specification」と「GenICam」を始めとした業界規格を網羅した勧告案を随時提案する。その為の各規格のChairとの協議をより一層高めていく。 • マシンビジョンに関するフレームワークを定義・確定し、インターフェースを含めた技術仕様の勧告化を目指す。		
国内外の標準化団体等の動向	JIIAは、アライアンスを締結しているA3(北米)、EMVA(欧州)、VDMA(ドイツ)、CMVU(中国)などの国際的なマシンビジョン業界団体と連携しているが、その中で新たにMachine vision consortiumとしてITU-Tでの活動を強化、推進していく。各団体で新しい技術の標準化活動を実施しており、海外各団体の活動状況は活発であり、アライアンスとして国際技術会議、及びマネージメントレベルの会議を各2回/年を実施して、JIIAの構想のITUでの連携について、既に賛同を得ており、具体的な活動計画を策定、実行していく。		

図1　ITU-TでのMV標準化活動計画

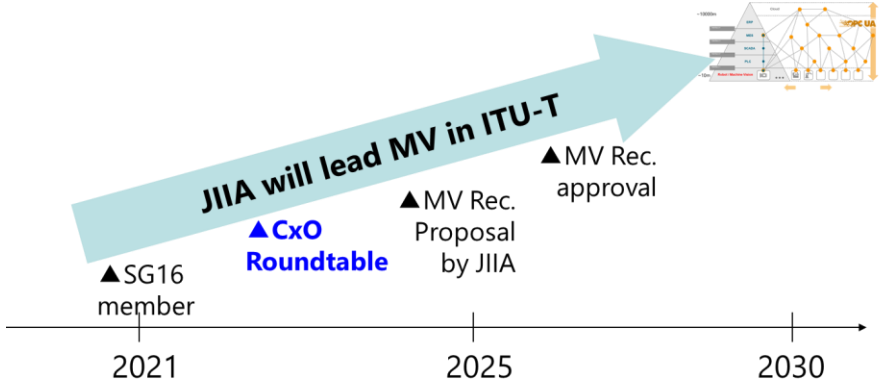


図2　MV業界団体のConsortiumとITU-Tとの関係

中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	マシンビジョンSWG	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	・ITU-T SG21 Q5,Q7の主にマシンビジョンに関する寄書調査、問題提起 ・JIIAからのDigital Twinに関連する寄書提案、及びMachine vision consortiumの標準化活動の強化、推進 ・国際標準化動向の情報提供のための国内向けセミナー
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 一般社団法人 日本インダストリアルイメージング協会（JIIA）

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件	25年1月 Digital Twinに関連する修正提案 25年11月 Machine vision（H.IMV-FRM）	
	外部会合への参加・連携状況	参加：ITU-T SG21会合 25年1月本会合参加（24年度） 25年10月本会合参加 ITU-T SG21 Q5/Q7 RGM会合 連携：JIIA、G3、Machine vision consortiumとの連携	参加：ITU-T SG21会合 25年1月 -ジュネーブ 参加2名、リモート3名 ITU-T SG21本会合 25年10月 -ジュネーブ 参加2名、リモート4名 その他RGM会合 - Q5/Q7/SG21 25年8月 リモート2名 連携：JIIA、G3、Machine vision consortium ①上記の各ITU会合前に寄書のレビューをリモートで実施 ②国際標準化会議（IVSM） 25年4月（カナダ） 25年10月（中国）	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書レポート	JJ標準	0件	0件	
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：0回 TR：0回	TS制定:0回 TR制定:0回	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	2件：25年6月 画像センシング展セミナー 25年12月 国際画像機器展セミナー	2件：25年6月 画像センシング展セミナーを実施 25年12月 国際画像機器展セミナーを実施	
	記事投稿、講演会	4件: 25年6月 画像センシング展パネル展示 25年4月 マシンビジョン標準化国際会議（IVSM）カナダ 25年10月 同上（中国） 25年12月 国際画像機器展パネル展示	4件: 25年6月 画像センシング展パネル展示を実施 25年4月 マシンビジョン標準化国際会議（IVSM）カナダを実施 25年10月 同上（中国）を実施 25年12月 国際画像機器展パネル展示を実施	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	マシンビジョンSWG	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	・ITU-T SG21 Q5,Q7、Q9の主にマシンビジョンに関する寄書調査、問題提起 ・JIIAからのMachine visionのWork item（H.IMV-FRM）のブラッシュアップ⇒本会合での議論・承認に向けた活動 ・標準化活動の強化、推進 ・国際標準化動向の情報提供のための国内向けセミナー
新テーマ	・ITU-T SG21　Q7のWork item（H.IMV-FRM）のConcentに向けた活動
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 一般社団法人　日本インダストリアルイメージング協会（JIIA）

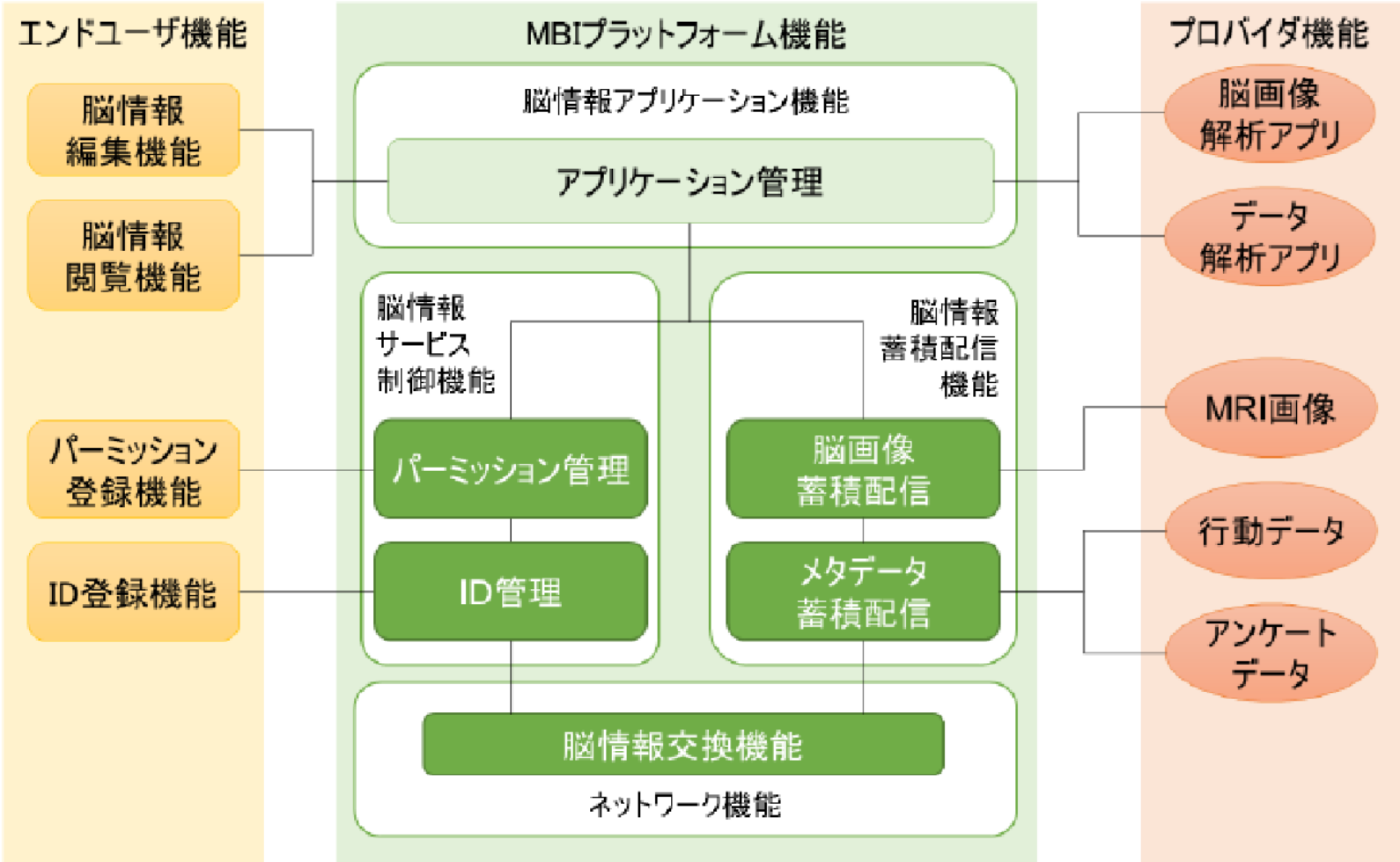
主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件		
	外部会合への 参加・連携状況	参加：ITU-T SG21会合 26年7月本会合参加 ITU-T SG21 Q5/Q7 RGM会合 連携：JIIA、A3、EMVA、VDMAとの連携		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件	0件	
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：0回 TR：0回	TS制定:0回 TR制定:0回	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	3件：26年6月 画像センシング展セミナー 26年10月 Vision2026セミナー（ドイツ） 26年12月 国際画像機器展セミナー		
	記事投稿、講演会	4件: 26年6月 画像センシング展パネル展示 26年4月 マシンビジョン標準化国際会議 （IVSM）チェコ 26年10月　同上（北米） 26年12月 国際画像機器展パネル展示		

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	電子情報健康管理SWG	1/3

企画戦略委員	相川　慎一郎（富士通）	登録委員数	8委員（1会員）
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	リーダ：川森雅仁（東京大学）	担当するSG・WP等	ITU-T SG21 Q2
活動の目的・意義 ・めざすゴール	持続可能な社会の発展のために健康の増進や高齢化への対応は、最重要な要素のひとつである。そのためにICT技術の利活用は不可欠になりつつあり、相互運用性、社会での普及という観点からe-healthの標準化は、大きな意義を持っている。本SWGは、以上の背景から、最新のマルチメディアICT技術を用いた遠隔医療やICT健康保健の作業項目の標準化を行う。	次ページ参照 以下注釈： 「Continua（Continua Design Guidelines）」 Personal Connected Health Allianceによって発行されたガイドライン 「 Personal Connected Health Alliance（ PCHAlliance ）」 様々な健康・医療システムやサービスをシームレスに扱えることを目標とし、より質の高い「予防的な健康管理」と「慢性疾患の管理」、そして「高齢者の自立支援」の実現を目指す非営利団体 「The Common Pass」 ・出入国のためにPCR検査結果などを共有する世界共通の電子証明書の仕様策定などを進めるスイスに設立された国際的な非営利組織。米ロックフェラー財団が資金提供し、世界経済フォーラムや国際文化会館などが運営を担う。米Googleのエンジニアや米IDEOのデザイナーなどもメンバーとして参加		
活動する上での課題 （人材面や運用面での課題を含む）	国内での活動の活発化。標準化活動結果の国内での宣伝		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	・H.870のコンフォーマンステストのアップストリーム ・H.870の国内仕様の精緻化 ・アクセシブル遠隔医療への提案、ダウンストリーム；EMCの推進 ・脳情報プラットホーム（勧告化完了）ユースケースなどの拡充 ・F.780.1（超高精細医療応用）改定へのアップストリーム ・F.780.1のコンフォーマンステストのアップストリーム ・超高精細内視鏡に関連した色基準に関するアップストリーム活動（テクニカルドキュメント化） ・Continua Guidelineのダウンストリーム ・The Common Pass標準化議論とアップストリーム		
国内外の標準化団体等の動向	ITU-TSG16 Q28では、日本から提案した脳情報プラットホーム、超高精細内視鏡等の標準勧告化がなされた。また以前から続いているContinuaAliianceGuidelineの勧告化が継続されている。WHOとの共同標準であるH870が業界の関心を呼んでいる また新たにFG on AI for Healthが2018年度より開始され、その動向が注目される。ISOのHealth Informaticsと、Q28/16 はリエゾンを通じて情報共有しており、上記の活動とも関連する。WEFが推進するCOVID-19に対応したThe Common Passの標準化。アクセシブル遠隔医療はWHOが推進している。		

脳情報プラットフォーム



中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	電子情報健康管理SWG	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	・Safe Listening勧告の改定、普及。アクセシブル遠隔医療の推進、普及 ・医療用UHD応用関連勧告化の推進 ・脳情報プラットホーム関連勧告化。脳情報関連の新規テーマの検討 ・AIと保険医療標準化のウォッチ ・コロナ関連勧告の検討
関連する専門委員会または外部組織とその内容	

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件程度	10月会合：7件	
	外部会合への 参加・連携状況	・ITU-T SG21会合：10月	ITU-T SG21会合：10月参加 ITU-T WP2/21 RGM（参加予定）	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	マルチメディア応用専門委員会のセミナーに協力する	・TTCオンラインセミナー「Safe Listening 5：ずっといい音を聴いていたい」開催（7/18） ・TTC・MIC共催オンラインセミナー「見た目のとおりの色再現：高精細映像データ医療応用における測色要件（ITU-T Rec. F780.6）」開催（11/14）	
	記事投稿、講演会	TTCレポート、ITUジャーナル等		

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	電子情報健康管理SWG	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	・Safe Listening勧告の改定、普及。アクセシブル遠隔医療の推進、普及 ・医療用UHD応用関連勧告化の推進 ・脳情報プラットホーム関連勧告化。脳情報関連の新規テーマの検討 ・AIと保険医療標準化のウォッチ ・アフターコロナ関連勧告の検討
新テーマ	Safe Listening、＋ **Safe Viewing**
関連する専門委員会または外部組織とその内容	WHO、ILO、ISO（TC100、TC108）、Bluetooth SIG

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件程度	-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG21会合：7月		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	5月：Safe-listeningセミナー 7月：BCI/BMI（脳ーマシンインタフェース）関連セミナー ・その他、マルチメディア応用関連のセミナーの機会があれば協力する		
	記事投稿、講演会	TTCアクセシブル、ITUジャーナル等		

コネクテッド・カー専門委員会

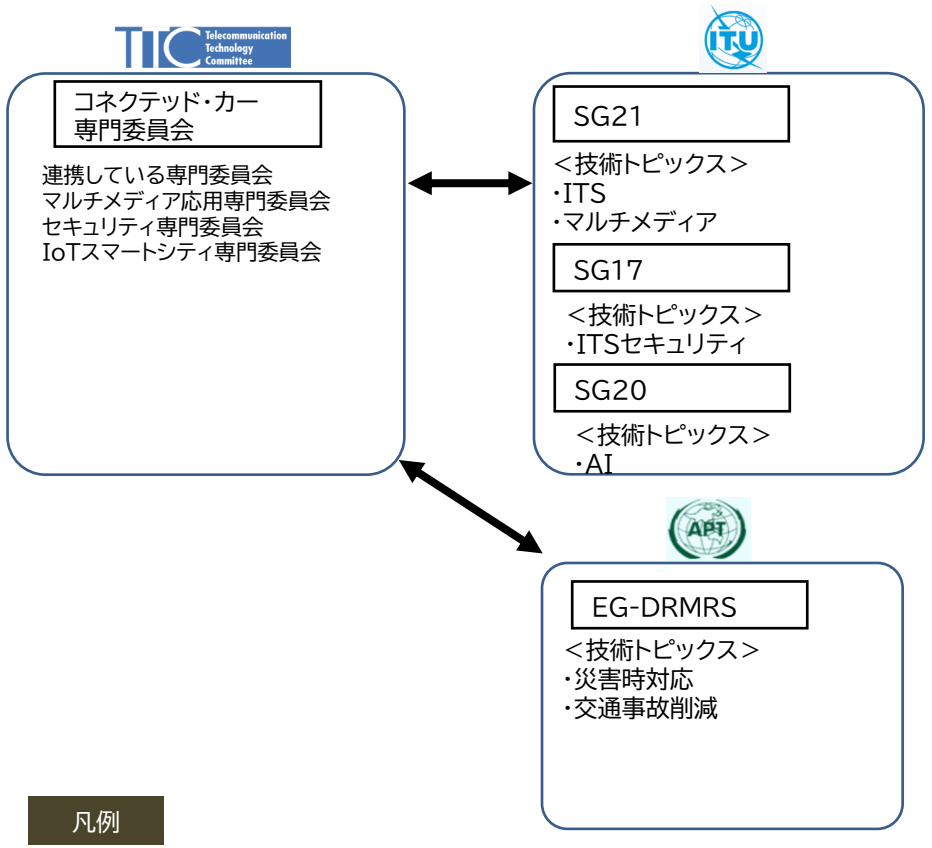
中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	コネクテッド・カー専門委員会	1/3

企画戦略委員	畑中 芳隆（NTTドコモ）	登録委員数	24
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長：千村保文（沖コンサルティングソリューションズ）／副委員長：加藤 寛子（デンソー）	担当するSG・WP等	ー

活動の目的・意義 ・めざすゴール	• 本専門委員会では、クルマ（四輪車以外を含む移動体）同士あるいは車と道路インフラや他ネットワークアプリケーションとつながることによる課題や新たな価値について検討する。 • 高度道路交通システム（ITS）による交通事故削減や交通状態緩和などの新たな社会価値創造に向けて、通信技術が貢献するための課題や標準化の役割について、他団体と連携し、コネクテッド・カーや自動運転の社会実装のロードマップ実現に貢献する。
活動する上での課題 （人材面や運用面での課題を含む）	・ 自動車関連業界団体との密接な情報連携と急速に変化する市場動向のウオッチ ・ **活動メンバーが固定化してきており、変化するテーマに対応したメンバーの強化が課題**
関連のSDGsゴール	
標準化方針	[アップストリーム活動] ・ ITU-T SG17、20、21を中心にモビリティ関連の課題に注視し、標準化課題の提言を行う ・ CITSへの自動車通信分野の標準化動向を調査し、標準化課題を提言（**特に、自動運転に関する動向やSDV（ソフト定義車）の動向に注視**） [TTCドキュメント制定] ・「災害時の自動車活用した情報通信システム（V-HUB）」の利活用ガイドラインの改訂と拡充 ・ ASTAPへの災害時の情報通信システムの事例レポートの提案とメンテ ・ 自動車関連団体（JAMA、JSAE、JASPAR）との課題共有継続 ・ DREAMS FORUMや自治体との連携により、コネクテッド・カー利活用促進を図る。
国内外の標準化団体等の動向	・WTSA24の新決議[RESOLUTION COM4/VC]に基づき対応 ・ITU-T SG17、SG20、SG21にてITS（高度道路交通システム）に関連する標準化に対応 ・ ISOでは、TC204を中心に標準化対応中。CITSにて標準化団体間連携中。 ・国内では、JASE、JASPAR、ITS-Japanなどと連携を図る。

活動体制の図解



凡例

→ アップストリーム（寄書審議等）

- - - → ダウンストリーム（国内標準作成等）

↔ 連携

中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	コネクテッド・カー専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	コネクテッド・カーに関する最近の国内外の動向に注視し、以下の標準化活動を実施 （1）災害時ITS応用：自動車を用いた**防災・減災システム（V-HUB）**の社会実装に向けて、**日本ITU協会、自動車技術協会の期間誌に記事掲載** （2）ITU-T SG17、20、21等のモビリティ関連のWork Itemを調査し、標準化動向を注視すべきテーマ（**SDV：Software Defined Vehicle）他）の検討を行っている** （3）広域通信（5Gなど）と狭域通信（DSRC）を活用した都市全般を対象とする事故防止や渋滞解消に向けたスマートシティにおける課題解決に向けた取り組みの調査 （4）**ITSデータの分析**による新たなソリューション開発の動向について、**日野コンピュータおよび電子情報通信学会AA-ITS研究会と情報交換**を実施している
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• マルチメディア応用専門委員会（SG21）、セキュリティ専門委員会（SG17）、IoT・スマートシティ専門委員会（SG20） • 自動車関連団体との連携（JAMA、JSAE、ITS-Japan、DREAMS利活用研究センター、電子情報通信学会AA-ITS研究会）

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	1件以上	1件	
	外部会合への 参加・連携状況	CITS	ITU-T SG21 SDVレポートへの寄書（9月）	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	2回 （セミナー、CEATEC）	1回（2026年3月予定）「SDVに関する標準化動向と今後の展望（仮）」	名古屋大学 高田先生、ボッシュ 森田様との意見交換会実施 日野コンピュータ 伊藤様との意見交換会実施
	記事投稿、講演会		ITUジャーナル 9月号「災害時のコネクテッド・カー技術の社会実装の状況と将来展望」	自動車技術協会誌2026年5月にも掲載予定

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	コネクテッド・カー専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	• SDV（Software Defined Vehicle）の標準化動向の調査を行い、今後の取り組むべき課題を整理する • 災害時の防災・情報通信システム（V-HUB）の社会実装について、プロモーションを継続し、社会実装を推進する
新テーマ	• ITS（Intelligence Transport System）のデータ分析を通して、交通渋滞回避、交通事故防止を推進するため、自動車関連団体や電子情報通信学会との連携を強化する。その一環として、大学や企業と連携したITSデータ分析ハッカソンに協力する。
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• マルチメディア応用専門委員会（SG21）、セキュリティ専門委員会（SG17）、IoT・スマートシティ専門委員会（SG20） • 自動車関連団体との連携（JAMA、JSAE、ITS-Japan、DREAMS利活用研究センター、電子情報通信学会AA-ITS研究会）

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件	-	
	外部会合への 参加・連携状況	CITS（活動状況報告） ITU-T SG21（SDV）		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	1回　2027年3月予定		
	記事投稿、講演会	1件　自動車技術会誌（2026年5月予定） 1件　電子情報通信学会ハッカソンへの後援		

BSG専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	BSG専門委員会	1/3

企画戦略委員	原 美永子（NTT）	登録委員数	委員：3名　特別委員：1名
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長：山本 秀樹（OKI）／ 副委員長：山本 浩司（NTT）	担当するSG・WP等	ASTAP EG BSG

活動の目的・意義・めざすゴール

日本と東南アジア諸国との交流は、1980年代に政府を中心に強化されたが、昨今日本のGDP（国内総生産）の世界に占める割合の低下（30年前の18%が2023年は4%）や東南アジア諸国の成長に伴い、関係性は薄くなっている。

標準化の世界的なトレンドとして標準をビジネスにつなげていくため、従来の性能・機能・方式の標準でなく、社会課題を解決するシステム・サービス・ソリューション丸ごとの標準が求められている。日本は、ITU-T局長やSG議長1名、副議長6名、TSAG副議長1名を輩出し東南アジア諸国に関し標準化の面で豊富な知識・ノウハウを有している。

そこで、日本企業としては、標準化を利用し、アジア新興国との関係を強化し、市場開拓につなげる戦略が重要になる。このような認識の基に、①アジア新興国の社会課題を解決するICTソリューション実証実験結果をICT分野別に体系化し、②実施ノウハウを共有化する導入ガイドライン（ソリューション利用標準）を策定し、③推進に必要な連携構築や、ビジネス展開につながるプロモーション活動等を持続的に推進する。

活動する上での課題（人材面や運用面での課題を含む）

委員増 ／ 日本製品が絡む新規プロジェクトの創出 ／ 国外パートナー・人脈の維持、開拓

関連のSDGsゴール

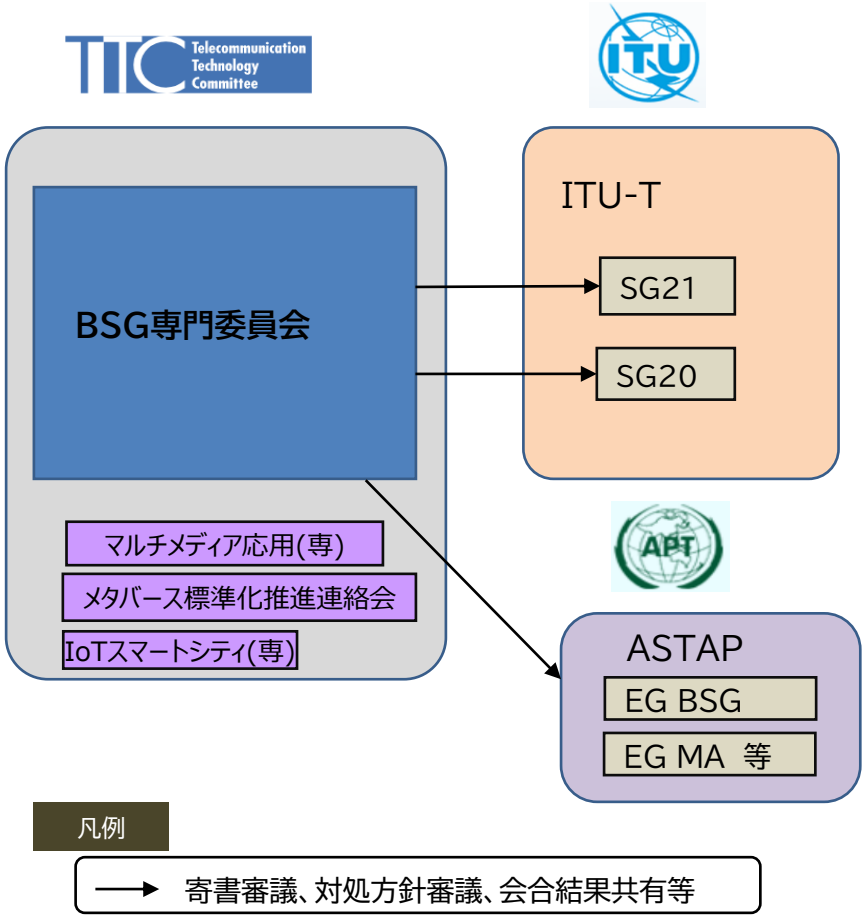
標準化方針

[アップストリーム活動]
・ソリューション利用標準であるASTAP文書（APT Report）の「ICTソリューションハンドブック」を、各国の要望を盛り込みながら改訂提案を継続する。
[TTCドキュメント制定]
・上記「ICTソリューションハンドブック」はTTC技術レポート（TR）として文書化し、新興国ビジネス開拓に向けた利用標準として活用する。

国内外の標準化団体等の動向

•世界電気通信標準化会議（WTSA-12）において、Resolution 44 “Bridging the standardization gap between developing and developed countries” の改訂が議論され、ITU-T各SGに対して途上国が置かれた特有な状況に配慮して標準化を適切に進めるよう指示することが新たに盛り込まれた。
•WTSA-24（2024年10月）でも本決議は改訂され、継続された。
•ITU-T尾上局長の公約に、BSG解消が上がっており、ITU-TでもBSGを促進中。

活動体制の図解
（専門委員会/SWGと対応するSG/技術トピックス、関連する団体等）



中期標準化戦略 （2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	BSG専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	① 農業・観光・健康管理などの地域課題を解決するICTソリューションを提案することを目的とするアイデアソンの実施を検討 ② 産学官連携プロジェクトを利用した日本のICT技術の新興国普及のためのビジネスモデル形成およびステークスホルダー育成の推進 ③ 産学官連携プロジェクト成果によるAPTレポート「ICTソリューションハンドブック」の改定を継続。改定内容はTTC技術レポートに反映 ④ 新興国の人々とICTエキスパートとの間の知識の橋渡しに焦点を当てたケーススタディのワークショップ・研修を開催 ⑤ 日本も含めたアジア太平洋地域の標準化人材育成のためのワークショップ・研修を開催 ⑥ 過去のパイロットプロジェクトサイトでの異業種間データを共有するプラットホームを維持管理（マレーシアと連携）、新IoTシステム検討
関連する専門委員会または外部組織とその内容	- 関連専門委員会：新規プロジェクトの内容により、個別に相談 - 外部組織： APT、マレーシアMTSFB、タイNBTC、SHAREメンバー --- 標準化提案・プロジェクト・ワークショップ・アイデアソンの検討・実施

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	1件 ・ASTAP EG BSG（2025年4月予定） - ICTソリューションハンドブック改定提案（マレーシアのケース追加）	2件 ・ASTAP EG BSG（2025年4月） -2024年度に実施したAPT研修（2件）に関する成果を報告	
	外部会合への 参加・連携状況	① アイデアソン開催検討： 2回 ②-1. APTプロジェクト「マレーシアの医療プロジェクト第2段階」参画 ②-2. 新APTプロジェクト提案の検討 ③. ASTAP： 1回 （2024年5月予定） ④⑤. 研修またはワークショップ： 2回 ①～⑥. SHAREミーティング： 1回	① アイデアソン開催検討： 0回 ②-1. APTプロジェクト「マレーシアの医療プロジェクト第2段階」提案し、APTの返事待ち。 ②-2. なし ③. ASTAP： 1回 （2025年4月出席） ④⑤. 研修またはワークショップ： 2回 （1回目：2026年1月 2回目：2026年3月） ①～⑥. SHAREミーティング： 0回 その他 APT大臣級会合出展（2025年5月）	項番は、重点取組の番号を示す
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件	0件	
	TS/TR/SR	0件 / 0件 / 0件	0件/0件/0件 TR-1058改定はなし	
③ ダウンストリーム	数	TS制定： 0件 TR制定： 0件	TS制定： 0件 TR制定： 0件	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	TTCセミナー 1回	セミナー1件 TTC・XGPフォーラム共催セミナー「ドローン利活用の最新動向と国際的な応用事例」開催（2025年11月）	APT関係国からの講演あり
	記事投稿、講演会	TTCレポート記事： イベント毎に報告	TTCレポート記事： 3件 ASTAP報告/APT大臣級会合出展報告/セミナー報告	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	BSG専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	① 農業・観光・健康管理・災害対応などの地域課題を解決するICTソリューションを提案することを目的とするアイデアソンの実施を検討 ② 産学官連携プロジェクトを利用した日本のICT技術の新興国普及のためのビジネスモデル形成およびステークスホルダー育成の推進 ③ 産学官連携プロジェクト成果によるAPTレポート「ICTソリューションハンドブック」の改定を継続。改定内容はTTC技術レポートに反映 ④ 新興国の人々とICTエキスパートとの間の知識の橋渡しに焦点を当てたケーススタディのワークショップ・研修を開催 ⑤ 日本も含めたアジア太平洋地域の標準化人材育成のためのワークショップ・研修を開催 ⑥ 過去のパイロットプロジェクトサイトでの異業種間データを共有するプラットホームを維持管理（マレーシアと連携）、新IoTシステム検討
新テーマ	• 気候変動に伴い多発化・甚大化しているアジア太平洋地域の自然災害時に、地域住民が迅速・的確に非難する等の対応力向上による被害最小化を行うためのメタバース導入に向けた産官学連携プロジェクト（APTプロジェクト）を検討する。
関連する専門委員会または外部組織とその内容	- 関連専門委員会：新規プロジェクトの内容により、個別に相談 - 外部組織： APT、マレーシアMTSFB、タイNBTC、SHAREメンバー --- 標準化提案・プロジェクト・ワークショップ・アイデアソンの検討・実施

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	1件 ・ASTAP EG BSG（2026年4月予定）		
	外部会合への 参加・連携状況	① アイデアソン開催検討： 1回 ②-1. APTプロジェクト参画「マレーシアの医療プロジェクト第2段階」参画 ②-2. 新APTプロジェクト提案の検討 ③. ASTAP： 1回 （2026年4月予定） ④⑤. 研修またはワークショップ： 2回 ①～⑥. SHAREミーティング： 1回		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件 / 0件 / 0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS制定： 0件 TR制定： 0件	TS制定： TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	TTCセミナー 1回	TTCセミナー：	
	記事投稿、講演会	TTCレポート記事： イベント毎に報告	TTCレポート記事：	

一般社団法人
情報通信技術委員会

IoT・スマートシティ専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	IoT・スマートシティ専門委員会	1/3

企画戦略委員	神保　光子（NEC）	登録委員数	20名 /10社
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長：山田　徹（NEC）、副委員長：後藤　良則（NTT）	担当するSG・WP等	ITU-T SG20

活動の目的・意義・めざすゴール

- モノのインターネット（IoT）・デジタルツイン・スマートサステナブルシティ＆コミュニティ（SSC&C）の広範な課題について、ITU-T SG20に向けた国際標準への提案活動を推進し、日本の本分野の影響力を向上させる。
- 世界各国で検討・導入が進むIoT、デジタルツイン、およびスマートシティの事例および各国の都市課題を分析し、本分野のビジネスのグローバル展開に貢献する。

活動する上での課題（人材面や運用面での課題を含む）

- 日本の企業、団体、組織などの積極活動による、本分野での影響力確保
- ITU-Tの他SG、および他標準化団体との標準化連携・分担
- 寄書提案数増加に伴う他国提案への対応工数の増加
- 人材の育成と確保、継続

関連のSDGsゴール

標準化方針

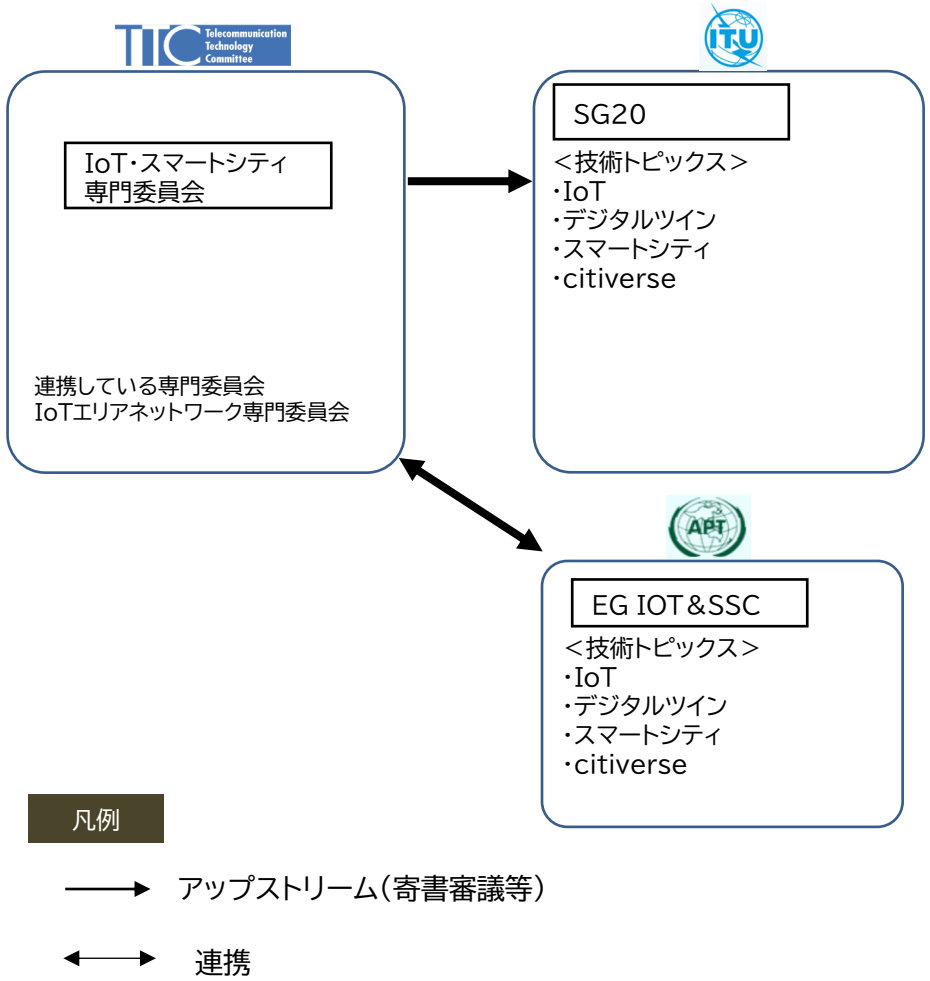
- ITU-T SG20に向けた、IoT・デジタルツイン・スマートシティに関する、国際標準への提案活動の推進
  - 日本からの新たな提案案件の探索
- ITU-T SG20における、標準化動向の調査および、対応・対策
- 特に新興技術（デジタルツイン、citiverse、ロボティクス等）に関する標準化議論の調査・分析
- 国内におけるITU-T SG20に係る取り組みや勧告活用のための啓発活動

国内外の標準化団体等の動向

- ITU-T SG20（直接参画、アップストリーム）
- TM Forum（TM Forum仕様のITU-T勧告化）
- ISO/IEC/JTC4、ISO/IEC/JTC1 SC41（IoT・デジタルツイン）他
- U4SSC（スマートシティKPIのITU-T勧告化）、他

活動体制の図解

（専門委員会/SWGと対応するSG/技術トピックス、関連する団体等）



中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	IoT・スマートシティ専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	• ITU-T SG20におけるIoT・デジタルツイン・スマートシティに関する国際標準への**提案活動の推進（寄書提案2件）** TTC会員がエディタを担当する**デジタルツイン関連案件（Y.DT-CS）の作業完了、Y.4513として承認済み。** • ITU-T SG20における標準化動向の調査および、対応・対策 • **外部イベントでの情報発信：Interop Tokyo 2025にて、当委員会およびITU-T SG20の活動紹介実施**
関連する専門委員会または外部組織とその内容	IoTエリアネットワーク専門委員会：IoTエリアネットワーク専門委員会での検討結果のITU-T SG20への勧告化提案。テーマ探索

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2	2	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG20会合 2025年 9月開催予定 ITU-T SG20会合 2026年 初頭開催予定	ITU-T SG20会合 2025年 9月開催	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	TTCセミナー 「IoTスマートシティに関わる標準化・技術動向」 （開催時期未定）		
	記事投稿、講演会	TTCレポート2件（会合報告、セミナー報告）	・TTCレポート3件（SG20会合報告2件、セミナー開催報告1件） ・Interop TokyoでTTC名義で講演 「スマートシティの国際標準化から見るデジタルツインとその進化」	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	IoT・スマートシティ専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	• 日本が注力するIoT・スマートシティアプリケーションの要件定義等でITU-T勧告化を提案 ⇒ 日本のセクターメンバー、アカデミアメンバーからの提案を委員会としてサポート • **デジタルツイン、ロボティクス、都市のグリーン化等**の新興技術に関する標準化動向の調査・分析
新テーマ	デジタルツイン、ロボティクス（フィジカルAI、エンボディドAI）、デジタル農業
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• IoTエリアネットワーク専門委員会：IoTエリアネットワーク専門委員会での検討結果のITU-T SG20への勧告化提案。テーマ探索 • BSG専門委員会　　：スマート農業等新興国との相性の良い領域でのテーマ探索

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2	-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG20会合 2026年 5月開催予定 ITU-T SG20会合 2027年 初頭開催予定		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	TTCセミナー 「IoT・デジタルツイン・スマートシティに関わる標準化・技術動向」（開催時期未定）		
	記事投稿、講演会	TTCレポート2件（会合報告、セミナー報告）		

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	ICTと気候変動SWG	1/3

企画戦略委員	神保　光子（NEC）	登録委員数	12
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	リーダー 原 美永子（NTT）	担当するSG・WP等	ITU-T SG5 WP2/3

活動の目的・意義 ・めざすゴール	• ICT設備のエネルギー効率の評価やスマートエネルギー実現要件、廃棄物削減への各種要件の整理、評価方法の構築に加え、ICTを活用することによる環境貢献の評価方法を構築などにより、ICT自らの環境負荷低減や他セクタへ与える環境貢献を訴求するとともに持続的な社会実現に貢献する。 • 環境課題への貢献の定量化手法は、その妥当性の検証が困難であり、標準化の枠組みにて、国際社会間での合意を形成することが有効。
活動する上での課題 （人材面や運用面での課題を含む）	• カーボンニュートラルだけでなく、資源循環、生物多様性などの目標設定すすめられており、その達成度や貢献を示すための定量化手法が望まれているが、気候変動の緩和を除いて、その貢献量を定量化する手法・技術が未開発の状況。 • そのため国内で新たな評価手法が開発された場合はいち早くアップストリームするとともに国外で有益手法があれば速やかにダウンストリームするなど、情報を流通させることが必要。
関連のSDGsゴール	
標準化方針	• ITU-T SG5 WP2, 3に向けた自然環境、気候変動対策および循環経済に関する国際標準への提案活動の推進 　- 日本からの新たな提案案件の探索 • ITU-T SG5 WP2, 3における、標準化動向の調査および、対応・対策 • 特に新興技術（AI、グリーンソフトウェア等）に関する標準化議論の調査・分析 • 国内におけるITU-T SG5 WP2, 3に係る取り組みや勧告活用のための啓発活動
国内外の標準化団体等の動向	• ITU-T SG5 WP2, 3, SG17, JCA-AHF, JCA- IMT, ICA-ML, JCA-Res178, JCA-HN, SCV, CASC, FG-AI4NDM、ITU-D SG2, ITU-R SG1, SG6, WP5A・5D, WP1B・1C • ISO TC 323、ISO/TMB/CCCC、ISO/IEC JTC1/SC 39 • IEC ACEA、SyC LVDC、TC100 TA14、TC21、TC 111、TC120 • CEN/CENELEC/ETSI CG GDC・SF-SSCC、CEN/CLC/JTC 10・JTC21、CEN-CENELEC（SABE）、ETSI TC EE、CEN-CENELEC Eco-CG, CENELEC TC210・TC106X・TC215、ECMA TC38、ETNO、EU JRC • IEEE PES SPDC、3GPP TSG SA5、Connect Europe、CIGRE、Green Digital Action • WHO

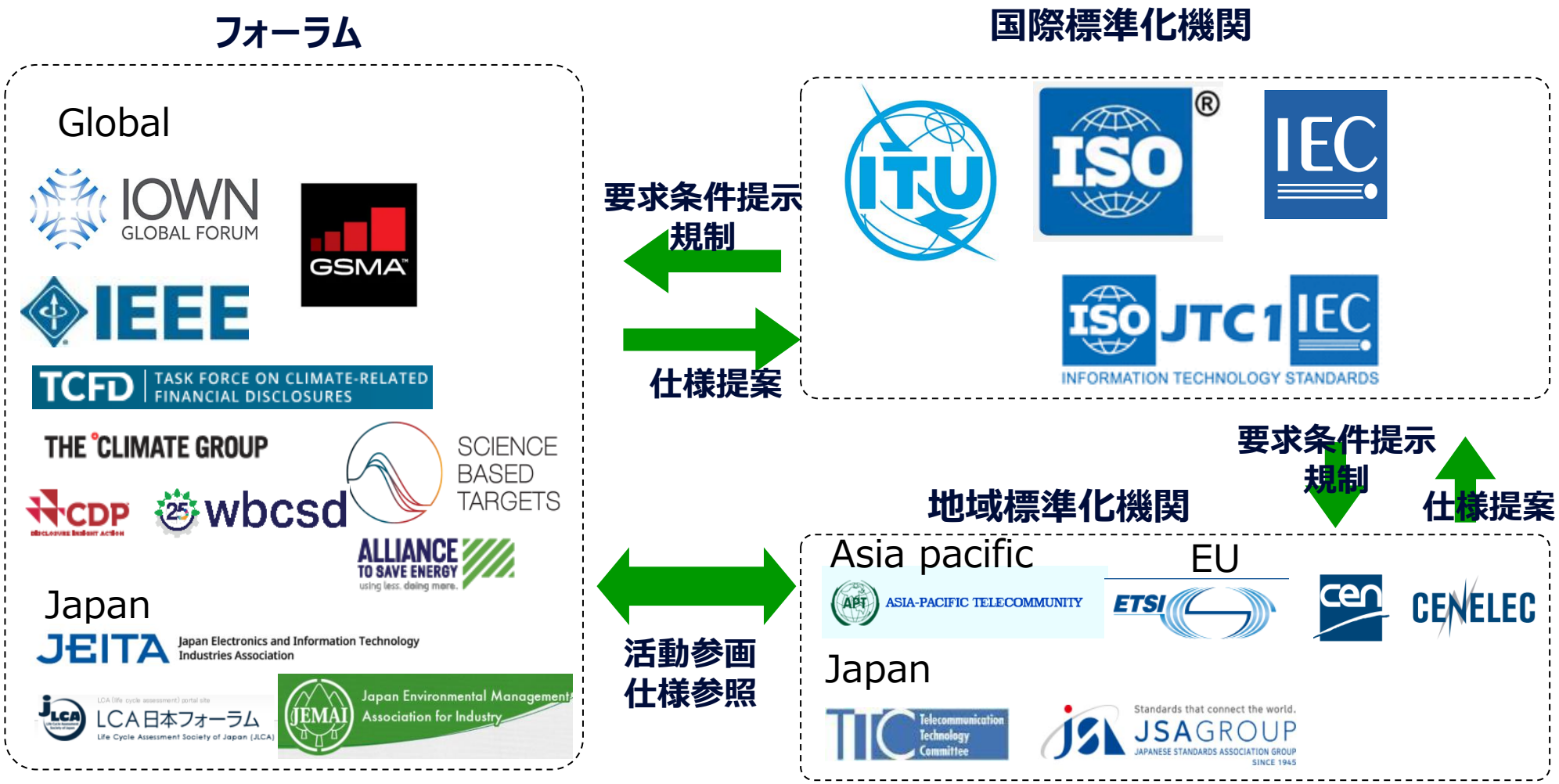
活動体制の図解

（専門委員会/SWGと対応するSG/技術トピックス、関連する団体等）

（別紙：ICTと環境に関する標準化団体）

別紙：ICTと環境に関する標準化団体

専門委員会･AG名	ICTと気候変動SWG	別紙



中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	ICTと気候変動SWG	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	気候変動への適応策、ICT持続可能評価、エネルギー効率測定法に関わるテーマを中心、標準化対応および成果普及を重点的に進める一方で、**国内の優良事例（省資源化技術）**について寄書化2件および**ソフトウェア製品向けCO2排出量評価に関するガイドライン** について寄書化1件。
関連する専門委員会または外部組織とその内容	IoT・スマートシティ専門委員会（循環型の持続可能なシティおよびコミュニティの構築）

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	0件	3件	
	外部会合への 参加・連携状況	SG5会合:2回（想定）	SG5会合:2回	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　0回 TR：　0回	TS制定：0回 TR制定: 0回	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	ー	ー	
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告	TTCレポート活動報告（6月SG5会合報告）	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	ICTと気候変動SWG	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	• 日本としては引き続き、**気候変動への適応策、ICT持続可能評価、エネルギー効率測定法**に関わるテーマを中心、標準化対応および成果普及を重点的に進めることとする。
新テーマ	• **ICTとGX・SDGs**
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• IoT・スマートシティ専門委員会（循環型の持続可能なシティおよびコミュニティの構築）

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	1件	-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG5 WP2/3（2026年6月）		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー			
	記事投稿、講演会			

AI活用専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	AI活用専門委員会	1/3

企画戦略委員	相川　慎一郎（富士通）	登録委員数	11委員（5会員）
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	―	担当するSG・WP等	―

活動の目的・意義・めざすゴール

- AI活用によりサービス基盤の高度化が見込まれる領域を選定し、などの、各テーマの具体化検討、技術ドキュメントの作成により、会員企業へ情報提供を行う。
- AI活用を推進する上で必要な世界中の知見収集と情報発信により、会員の新たなサービス創出や最先端ビジネス環境の構築促進につなげる。

活動する上での課題（人材面や運用面での課題を含む）

- 調査対象ユースケースの広がりの不足
- 課題抽出、アーキテクチャへの検討深度の向上
- **会員企業の関心が高いと思われる活動テーマを選定**することで委員会活動の活性化を図る

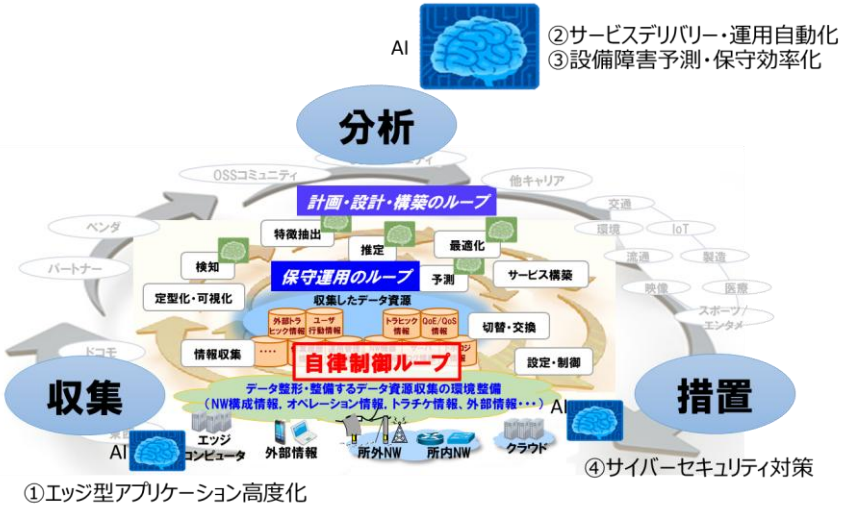
関連のSDGsゴール

標準化方針

(1)設置時の4検討対象テーマについての検討を継続。①エッジ型アプリケーション高度化、②サービスデリバリー・運用自動化、③設備障害予測・保守効率化、④サイバーセキュリティ対策
(2)ユースケース調査、具体課題の設定と調査に注力し、その結果をベースにその後のWork Item、成果物、関連専門委員会との連携に努める。
(3)AI適用時の品質・信頼性・説明責任について、委員会活動テーマの範囲において、あるべき姿の検討を行う。
(4) 成果物は、標準を含め、会員の事業に寄与するものとし、あらゆる知見、発見、情報を考慮する。

国内外の標準化団体等の動向

・IEEE：AI Global Initiative for Ethical Considerations in AI and ASで論点整理。Ethically Aligned Design(EAD)ver.2発行
・ITU-T SG2　：AIによる自然災害管理 FG-AI4NDM(2020/12月)
　　SG13：自律型NW FG-AINN(2024/7月)
　　SG20：農業対応AIとIoT FG-AI4A(2021/10月)
　　SG21：マルチメディア、コンテンツ配信、ACTV(2025/「1月)
　ISO/IEC JTC1:SC42設立(2017/10)。国内審議:情報規格調査会
・ETSI：ENI(Experiential Networked Intelligence:2017/2月)
　ZSM(Zero touch network and Service Management:2017/12)
・TM Forum：顧客体験、サービス、網の各管理へのAI応用のPoC等
・OSS系：ONAP、Acumos、TIP(Telecom Infra Project)等



AI実装位置例

中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	AI活用専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	●生成AIを活用したサービスを中心に、生成AI活用のおけるガイドライン、開発者向けガイドラインの動向等の倫理課題と利用者側の注意すべきポイントや利用時注意点等の整理を行う。 • AIのリテラシー向上とAIの普及促進に資することを目指し、生成AIを実現するアーキテクチャの基本調査 • 各SDOでの検討状況に関わる情報の共有 • 各国における生成AI適用ガイドラインの調査 ●生成AIの適用促進を目的に、多様なユースケースの調査を行い、適用されているアーキテクチャやその適用事例の調査を行う。 • **通信が中心となるユースケースの調査から、通信領域におけるAI倫理のケーススタディの調査** ●TTC会員企業にとっての関心領域と思われる、通信関連領域/サービスを中心に、生成AIを適用したユースケース調査と掘り下げ検討を行う。 • 通信領域への生成AI適用時における、具体的課題の推定と検討　⇒**世代交代に伴う技術継承・後継者の育成。NW管理者教育への生成AI適用（運用管理/障害対応）** • 生成AI適用時のリスクとその回避策案 • 特定分野の専門家/有識者を招いてのセミナー企画
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 信号制御、Network Vision、移動通信網マネジメント、IoTエリアネットワークの各専門委員会（2030年を見据えた将来網検討）と共同して、IoTエリアネットワーク専門委員会、でのユースケース検討結果を踏まえたWI検討 • マルチメディア応用専門委員会、IOWN GF専門委員会等、他委員会との連携（寄書査読など）

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-	-	
	外部会合への 参加・連携状況	必要に応じて実施	無し	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件（予定しない）	0件	
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定：0回 TR制定: 0回	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	AI活用に関するセミナーの開催	無し	
	記事投稿、講演会	必要により検討	無し	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	AI活用専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	AI標準AHGのアップストリーム・ダウンストリームにつながるような活動のサポート
新テーマ	AI標準AHGの活動サポート
関連する専門委員会または外部組織とその内容	モバイル専門委員会、網管理専門委員会、IOWN GF専門委員会、NW Vision専門委員会、セキュリティ専門委員会

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	無し	-	
	外部会合への 参加・連携状況			
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件（予定しない）		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	FG-AINN-AHGとの連携により実施		
	記事投稿、講演会			

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	AI標準AHG	1/2

企画戦略委員	相川　慎一郎（富士通）	登録委員数	現在募集中
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	未定	担当するSG・WP等	ー
活動の目的・意義 ・めざすゴール	各標準化団体でどのようなAI活用の議論が行われているか、その全体像を取りまとめ、分析し、TTC内外に共有するとともに、各メンバ社の考えるユースケースや技術について、アップストリームの可能性の検討する。	未定	
活動する上での課題 （人材面や運用面での課題を含む）	各専門委員会のAIエキスパートの参加		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	1st STEPとして、各標準化団体でどのようなAI活用の議論が行われているか、その全体像を取りまとめ、分析し、TTC内外に共有する。		
国内外の標準化団体等の動向	・IEEE：AI Global Initiative for Ethical Considerations in AI and ASで論点整理。Ethically Aligned Design（EAD）ver.2発行。 ・ITU-TSG2　：AIによる自然災害管理 FG-AI4NDM（2020/12月） SG13：自律型NW FG-AINN（2024/7月） SG20：農業対応AIとIoT FG-AI4A（2021/10月） SG21：マルチメディア、コンテンツ配信、ACTV（2025/「1月） ISO/IEC JTC1:SC42設立（2017/10）。国内審議:情報規格調査会 ・ETSI：ENI（Experiential Networked Intelligence:2017/2月） ZSM（Zero touch network and Service Management:2017/12） ・TM Forum：顧客体験、サービス、網の各管理へのAI応用のPoC等。 ・OSS系：ONAP、Acumos、TIP（Telecom Infra Project）等。		

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

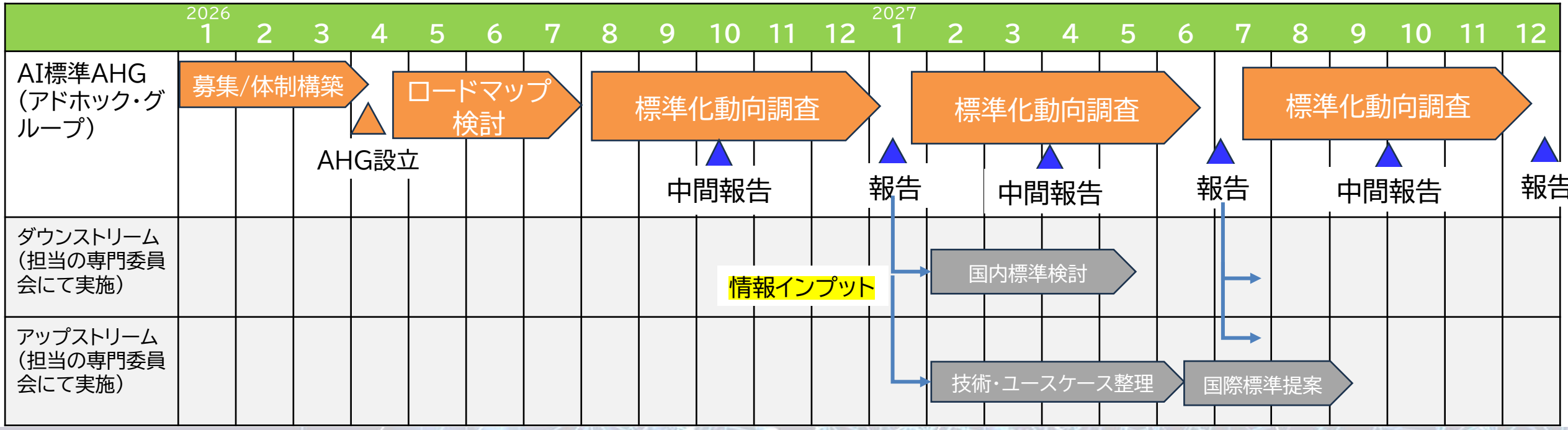
専門委員会・AG名	AI標準AHG	2/2

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	各標準化団体でどのようなAI活用の議論が行われているか、その全体像を取りまとめ、分析し、TTC内外に共有するとともに、各メンバ社の考えるユースケースや技術について、アップストリームの可能性を検討する。
新テーマ	ITU-T, IEEE, 3GPPなど国際標準化団体で議論されている、AIに関する議論を調査・分析し、TTC内外に展開する。
関連する専門委員会または外部組織とその内容	モバイル専門委員会、網管理専門委員会、IOWN GF専門委員会、NW Vision専門委員会、セキュリティ専門委員会

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	0件（予定しない）	-	
	外部会合への 参加・連携状況	必要に応じて実施		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件（予定しない）		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー			
	記事投稿、講演会			

（参考）AI標準アドホックグループ

- 通信分野を中心に、ITU-T、IEEE、3GPP等の国際標準化団体で議論されるAI関連の最新動向を調査・分析し、国内外への情報発信や標準化支援のため、新たにAI標準アドホックグループを設立する。
  動向調査を中心とすることで参加のハードルを下げ、アドホックグループ化により会員の制約を低減することで裾野を広げる方針とした。
- 活動期間：2026年4月1日から2027年12月31日まで
- 目標とする成果物
  ① AIに関する国際標準の動向調査・分析とそのレポートの発行。
  ② ①の調査結果から各専門委員会への提言（ダウンストリーム／アップストリーム）



セキュリティ専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

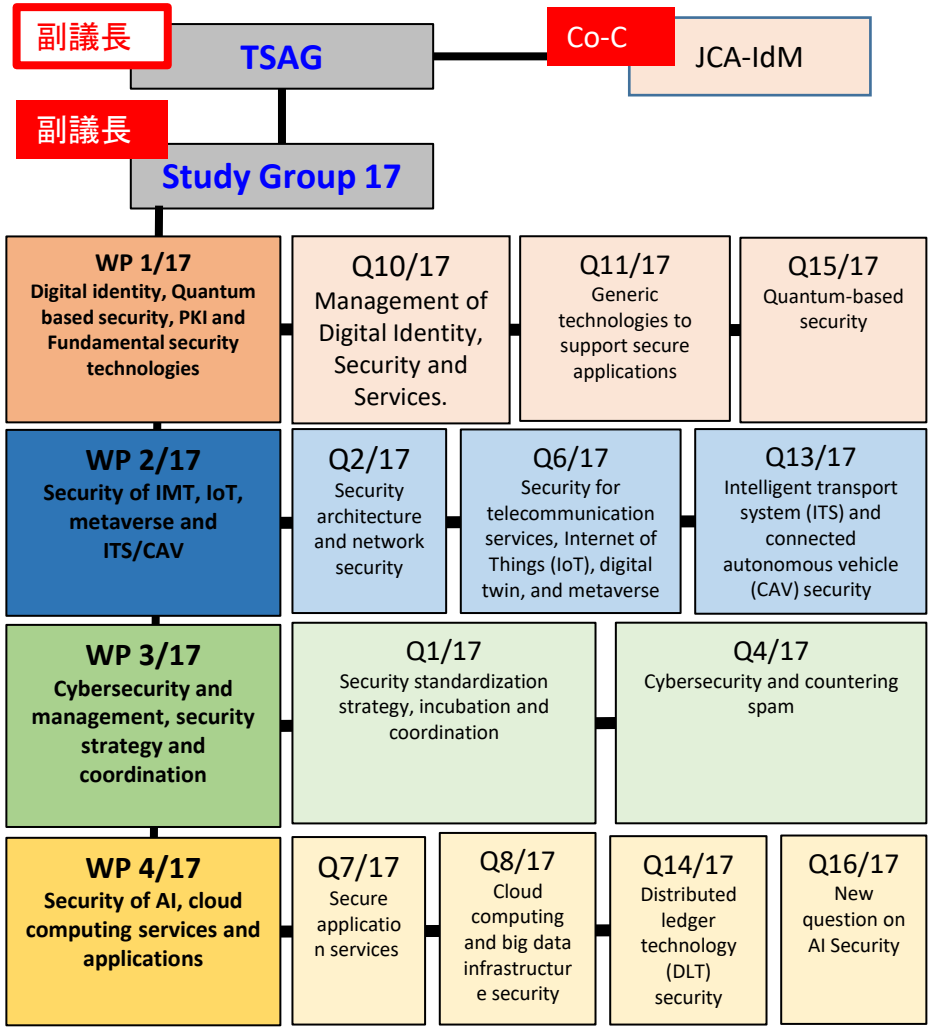
専門委員会・AG名	セキュリティ専門委員会	1/3

企画戦略委員	小川 健一（日立製作所）	登録委員数	委員 25名（8社）、特別委員 10名
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長 磯原 隆将（KDDI）、副委員長 安田 幹（NTT）	担当するSG・WP等	ITU-T SG17

活動の目的・意義 ・めざすゴール	• 目的：電気通信サービスに関わるサービスにおいて、サービスの安定運用とお客様への被害を最小限とするセキュリティ対策の仕組みの中で、国際標準化や情報共有が必要なものを勧告、技術文書として発行。 • 意義：電気通信サービスに関わる新しいネットワーク技術、アーキテクチャー、サービス等においてセキュリティ対策は必須となっており、サービスの安定運用と日本の技術の展開に向けた取り組みに意義がある。
活動する上での課題 （人材面や運用面での課題を含む）	• 量子技術、5G、Beyond 5G/6G、クラウド・仮想化、DLT、メタバース、サプライチェーン、AI等の新プラットフォーム・サービスの発展により、新たなサービスの展開が急速に進んでおり、これに伴うセキュリティ上の問題に対する新たな取り組みが必要。
関連のSDGsゴール	
標準化方針	• ITU-T SG17の活動において、特に、セキュリティマネジメント、CDC（Cyber Defence Centre）/CSC（Cyber Security Centre）、ITSセキュリティ、IoT/M2Mセキュリティ、5G/6Gセキュリティ（インフラセキュリティを含む）、クラウドセキュリティ、ID管理、DLTセキュリティ、量子関連セキュリティ（QKD、PQC等）の活動に対して寄書等により貢献。 • 他の分野と連携が必要な項目については、該当する専門委員会と引き続き情報交換を行いながら検討を実施。具体的には、QKD（NW Vision、信号制御）、IoTセキュリティ（oneM2M、IoT/SC）、ITSセキュリティ（マルチメディア、コネクテッドカー）、メタバース（マルチメディア）等が対象。 • ITU-T全体としてAI関連の活動が活性化していることから、他のSGの状況を確認しながらSG17での活動内容を整理するとともに、日本としての対応を検討する。 • 他国が提案する新規ワークアイテム、および、勧告案において、日本の方針に反する内容を勧告に含まれないように注視し、関係国と連携しながら必要な対応を行う。
国内外の標準化団体等の動向	• テレコムネットワークでのサービスが拡大する中で、AI、ID管理等の新しいトピックへの対応が求められている。これらについては、他のSG、標準化団体等との調整が必要。また、新任SG17議長のリードの元、課題再編や産業界誘致など活動の近代化と称するマネジメント活動も進められている。

活動体制の図解

（専門委員会/SWGと対応するSG/技術トピックス、関連する団体等）



中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	セキュリティ専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	• **量子関連技術の発展に伴うセキュリティ関連取り組みの強化（QKD関連の勧告作成の推進、PQCに関連した文書作成への貢献）** • **X.1060（Cyber Defence Centre）のアフリカ諸国等への展開とCDC関連の勧告・補足文書作成への貢献** • **B5G/6G、AI、Digital Twin、メタバース等に関する新しいトピックに対するセキュリティの取り組み強化** • X.1051（Controls for Telecom）の改訂作業への貢献 • 日本として注力・主導してきたIoT/ITS等に関するワークアイテムへの勧告化に貢献
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• コネクテッド・カー専門委員会：ITSセキュリティ関係のワークアイテムの対応検討 • Network Vision専門委員会、信号制御専門委員会：QKDに関わる勧告作成 • IoT・スマートシティ専門委員会、IoTエリアネットワーク専門委員会：IoTセキュリティ関連のワークアイテムの取り扱い • マルチメディア応用専門委員会：AI関連技術、メタバース、Digital Twin、分散電子台帳技術とeサービス • AI活用専門委員会：AIセキュリティに関わる連携

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	• 各SG17会合で10件程度	• 6件（SG17 20205年4月会合） • 9件（SG17 2025年12月会合）	
	外部会合への 参加・連携状況	• SG17会合（2025年4月、9月） • CJK Information Security WG会合（時期未定）	• SG17会合（4月会合）17名参加、（12月会合）27名参加 • CJK IS WG（2025年8月）2名参加 • Q15/17 Rapporteur 日本会合（2025年8月） 7名参加	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件（サイバーセキュリティ関連で標準化が必要と考えられる勧告の有無を検討する）	0件（2025年はダウンストリーム以外のTTC標準化案件は無し）	
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回 • X.1373については、改定内容を確認して標準化検討する。（X.1373: Secure software update capability for ITS communication devices） • 5Gのセキュリティ管理策（2024/09合意）については、SG17での勧告化後にTTC標準化を検討する。	TS制定 TR制定: 1回 • TR-XSup.44（X.1060の付属文書 - 概略的な実装の考察）2025年11月28日制定	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	セキュリティに関するセミナ開催（2025/2Q）	• 2026年3月にSecurity Days Spring 2026にて、「ITU-T SG17におけるセキュリティの国際標準化最新動向」と題するパネルディスカッションを実施予定（登壇者3名）	
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告、他	• SG17 12月会合の結果報告をTTCレポートに寄稿。	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	セキュリティ専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	• **量子関連技術の発展に伴うセキュリティ関連取り組みの強化（QKD関連の勧告作成の推進、PQCに関連した文書作成への貢献）** • **課題3と課題10が統合された課題におけるセキュリティマネジメント、ID管理等に関する勧告・補足文書作成への貢献** • 日本として注力・主導してきたIoT/ITS等に関するワークアイテムへの勧告化に貢献
新テーマ	• **AI、B5G/6G、Digital Twin等に関する新しいトピックに対するセキュリティの取り組み強化**
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• コネクテッド・カー専門委員会：ITSセキュリティ関係のワークアイテムの対応検討 • Network Vision専門委員会、信号制御専門委員会：QKDに関わる勧告作成 • IoT・スマートシティ専門委員会、IoTエリアネットワーク専門委員会：IoTセキュリティ関連のワークアイテムの取り扱い • マルチメディア応用専門委員会：AI関連技術、メタバース、Digital Twin、分散電子台帳技術とeサービス • AI活用専門委員会：AIセキュリティに関わる連携

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	• 各SG17会合で10件程度	-	
	外部会合への 参加・連携状況	• SG17会合（2026年6月、2027年1月） • Content Week会合（2026年3月、9月） • CJK Information Security WG会合（26年4月日本開催を予定） • Q15/17 Rapporteur会合（26年4月日本開催を予定）		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件（サイバーセキュリティ関連で標準化が必要と考えられる勧告の有無を検討する）		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：1件: X.1711: “Framework of quantum key distribution (QKD) protocols in QKD network” TR：1件: XSTR.ac-pqc: Guidance on use of advanced cryptography based on PQC	TS制定: TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	セキュリティに関するセミナ開催（2026/2Q）		
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告、他		

企業ネットワーク専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	企業ネットワーク専門委員会	1/3

企画戦略委員	小川 健一（株式会社日立製作所）	登録委員数	30人（3グループ）7社
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長：橋本 宣之（株式会社日立製作所） 副委員長：岡本 健太郎（日本電気株式会社）	担当するSG・WP等	IETF, ISO/IEC, 消防庁

活動の目的・意義・めざすゴール

- Web通信の高度化されたネットワーク基盤技術の標準化。
- Web通信の高速化、安全化、安定化を実現する重要な存在であり、次世代標準「HTTP/3」のトランスポート層であるQUIC関連RFCのTR化を進める。
  TR化においては、カテゴリ毎にTR化することを基準とし、内容と関連性により複数のRFCをひとつのTRとしてまとめる。
- 消防指令システムと消防救急無線に関し、マルチベンダシステム間での相互接続可能な共通インタフェースの仕様化を実施する。

活動する上での課題（人材面や運用面での課題を含む）

- 人材面：企業ネットワークというくくりであるため、対象範囲が広く、伝送方式から管理やセキュリティまで多岐にわたる専門家が必要となることがある。
- 運用面：基本は毎月オンライン開催であるが、運営上の問題はない。

関連のSDGsゴール

標準化方針

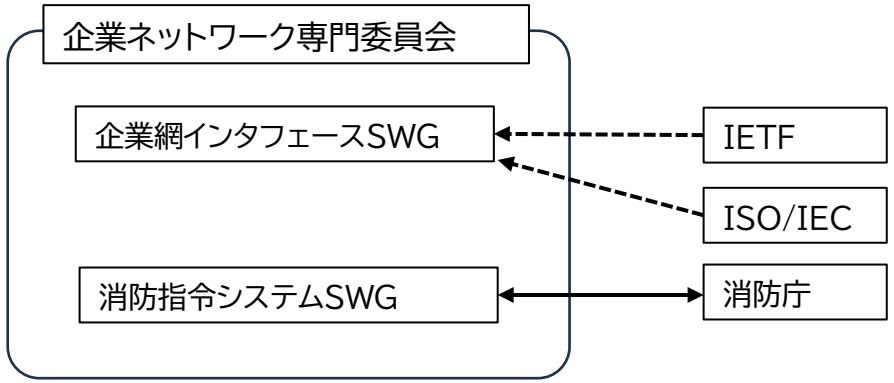
【SWG3302　企業網インタフェース関連】
- 企業ネットワークに接続されるデバイスの多様化、利用できるサービスの拡大（クラウド含む）に対応して、ネットワークそのものの高度化を進めていく。
- 企業ネットワークの高度化に伴い、益々重要性が高まっていくセキュリティ、管理、品質保証などの関連技術も標準化を進める。
- 音声系サービス（PBX,Web会議等）の拡充も継続的に検討する。

【SWG3304　消防指令システム関連】
- 消防指令システムに関しては、既存システムとの整合性を十分に考慮しタイムリーに仕様化する。

国内外の標準化団体等の動向

- IETF、ISO/IECにおいては標準化された技術の機能拡張が継続されており、引き続き調査検討を行う必要性がある。
- 企業や業界団体によるデファクトスタンダード化の存在感が増している。

活動体制の図解
（専門委員会/SWGと対応するSG/技術トピックス、関連する団体等）



凡例

- ⟶ アップストリーム（寄書審議等）
- - - ▸ ダウンストリーム（国内標準作成等）
- ⟷ 連携

中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	企業ネットワーク専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	• Web関連で利用されるトランスポート層プロトコルであるQUIC関連RFCのTR化を進める。 2025年度から2027年度にかけて実施し、2025年度はQUIC基本編のTR化を進める。 • 消防指令システム仕様書の改定に向けた作業（新技術の取り込み、方式の統一化検討）を継続する。
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 特になし

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	ー	ー	
	外部会合への 参加・連携状況	ー	ー	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	ー	ー	
	TS/TR/SR	0件/1件/0件 ・QUICに関する技術報告書（1件）	0件/0件/0件 ・TR-1111 QUICに関する技術報告書（3月予定）	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定: TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	ー	ー	
	記事投稿、講演会	ー	ー	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	企業ネットワーク専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	・QUIC関連RFCのTR化を継続する。 　2026年度はQUICセキュリティ編、通信制御編の2件についてTR化を進める。 ・消防指令システムについては、適用にあたっての課題に応じて、新技術の取り込み、方式の統一化など、仕様書の改定に向けて検討する。
新テーマ	Web通信の高度化されたネットワーク基盤技術の標準化
関連する専門委員会または外部組織とその内容	特になし

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	ー	ー	
	外部会合への 参加・連携状況	ー	ー	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	ー	ー	
	TS/TR/SR	0件/2件/0件 ・QUIC に関する技術報告書（2件）	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定： TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	ー	ー	
	記事投稿、講演会	ー	ー	

信号制御専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	信号制御専門委員会	1/3

企画戦略委員	原　美永子（NTT）	登録委員数	31委員（11会員）
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長：吉川 智之（NTT東）　副委員長：斉藤 壮一郎（OKI）	担当するSG・WP等	ITU-T SG11

活動の目的・意義・めざすゴール

- ITU-T勧告（SG11関連）、IETF仕様（SIP*中心）、3GPP仕様（IMS**）に基づき、信号方式関連国内標準化活動（PSTNマイグレーション後のIP化された電話網の標準類整備）
- * SIP: Session Initiation Protocol
- ** IMS: IP Multimedia Subsystem
- 2030年を見据えた、将来網の在り方や、要件に関してNetwork Vision、セキュリティ、AI活用、IoTエリアネットワークの各専門委員会と連携した検討

活動する上での課題（人材面や運用面での課題を含む）

- PSTNマイグレーションの完了（2024.12）を受け、電話網のIP化により顕在化した課題等に関わる標準類の整備。接続形態や、接続装置種別/製造ベンダー等が多岐に亘る中での試行結果の反映。例：SIPの解釈や設定順序等
- PSTNマイグレーション後の各通信キャリアの技術者や各種団体との連携模索。新規電話網接続要望事業者に対する情報提供等連携模索。TTC加入促進。
- SG11における、仮想ネットワーク、IMT-2020、IMT-2030、QKDN等の新興網のシグナリング及びプロトコル、これら新興網と従来網との相互接続に係わるフレームワーク、相互接続試験仕様とインターオペラビリティ等の課題への対応。

関連のSDGsゴール

標準化方針

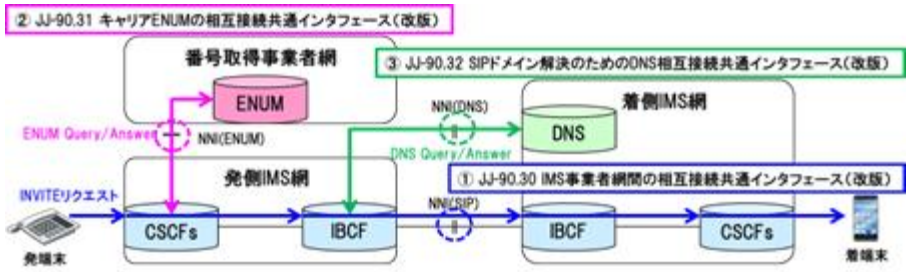
- SIP関連の仕様検討を中心に、国内の特有条件に応じた、標準・仕様書作成の検討を行う。（VoLTE/ViLTEの相互接続を含む）
- 移動-移動網間を含む網間のIP相互接続について、IMSをベースに、移動系専門委員会と連携して標準化を行う。その際には、3GPP、GSMAやCJK等の国際標準化動向に留意する。
- NGN信号プロトコルのリード専門委員会として、Network Vision、網管理、セキュリティ、マルチメディア応用の各専門委員会等と連携して標準化活動を進める。

国内外の標準化団体等の動向

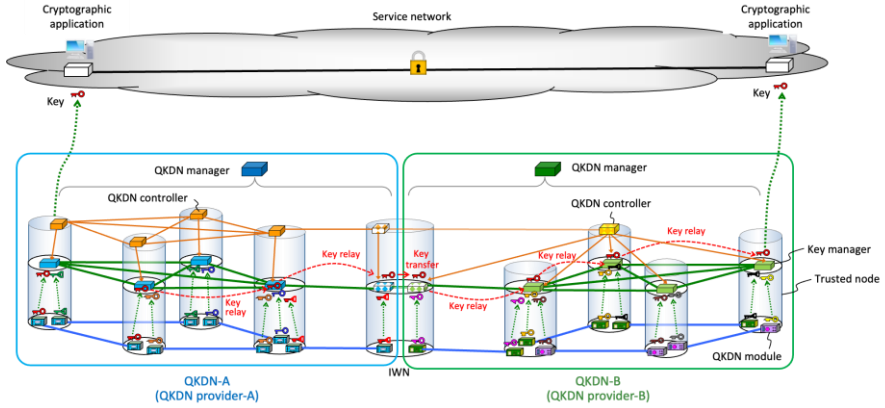
- 3GPPでは、IMS間相互接続仕様、SIP-ISUPインタワーク仕様に関して、Release-18以降も継続して仕様のメンテナンスが行われている。
- ITU-T SG11では、仮想ネットワーク、IMT-2020、IMT-2030、QKDN等の新興網のシグナリング及びプロトコル、これら新興網と従来網との相互接続に係わるフレームワーク、相互接続試験仕様とインターオペラビリティ等の課題を継続検討中である。
- 又、SG11をリードSGとして適合性・相互接続性や、M2M/IoT、IMT-2020、IMT-2030、SDNのシグナリングに関する検討が行われている。

活動体制の図解

（専門委員会/SWGと対応するSG/技術トピックス、関連する団体等）



IMSネットワーク間の参照NNI



QKDNインタワーキング構成図

中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	信号制御専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	専門委員会　2030年を見据えた、将来網の在り方や、要件に関してNetwork Vision、移動通信網マネジメント、AI活用、IoTエリアネットワークの各専門委員会、他団体との連携の検討 SIP SWG　国内ALL-IP化対応の標準（IMS事業者網間相互接続インターフェース等）の改訂 ①　3GPP等の標準化動向/PSTNマイグレーション後の実運用フェーズでの標準化フィードバック項目について、IMS事業者網間インタフェースの検討を進める。 ②　委員からの標準化検討要望への対応。 ③　国内他団体、CJK IMT-WG、GSMA等との連携、情報交換。 NGN信号アップストリーム SWG ①　SG11：会合へのアップストリーム活動（国内寄書のサポート）
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• セキュリティ専門委員会、Network Vision専門委員会（QKDN関連） • Network Vision、AI活用、移動通信網マネジメント、IoTエリアネットワークの各専門委員会（2030年を見据えた将来網検討） IoTエリアネットワーク専門委員会でのユースケース検討結果を踏まえたWI検討 • 3GPP専門委員会、マルチメディア応用専門委員会

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-	9件	
	外部会合への 参加・連携状況	SG11:7月WP/RGM会合、11月SG11会合	7月WP/RGM会合　提出寄書4件（新WI提案1件、既存WIの改版3件） 11月SG11会合　　提出寄書5件（新WI提案1件、既存WIの改版4件）	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	4件（PSTNマイグレーション関連ドキュメントの改版を予定、その他未定）	6件 JJ-90.27（v10.0） JJ-90.28（v4.5） JJ-90.30（v13.0）、JJ-90.30（E）（v13.0） JJ-90.31（v6.0）、JJ-90.31（E）（v6.0）	
	TS/TR/SR	2件/1件/0件（PSTNマイグレーション関連ドキュメントの改版を予定、その他未定）	2件/1件/0件 TS-1018（V7.4） TS-1025（v1.3） TR-1088（v4.0）	
③ ダウンストリーム	数	0件（未定）	9件（QKDN関連のITU-T勧告ベース） JT-Q4160（v1.0） JT-Q4161（v1.0、v1.1） JT-Q4162（v1.0、v1.1） JT-Q4163（v1.0、v1.1） JT-Q4164（v1.0、v1.1）	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	未定	今季該当なし	
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告（未定） SG11 会合報告（未定）	・標準類制定状況（Autumn 2025, Vol.40/No.2） ・SG11会合報告（Spring/Summer2025,Vol.40/No.1）	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	信号制御専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	・電話事業者間の相互接続信号方式が、ISUPからSIPに完全移行したことを踏まえ、引き続きメンテナンスを通じて国内事業者の網間での信号課題に対応。 ・専門委員会　2030年を見据えた、将来網の在り方や、要件に関してNetwork Vision、移動通信網マネジメント、セキュリティ、AI活用、IoTエリアネットワークの各専門委員会、他団体との連携の検討 ・国内他団体、CJK IMT-WG、GSMA等との連携、情報交換。
新テーマ	・**電話番号の信頼性（シグナリングセキュリティ）**に対応する話題が国内（発番号偽装対策）、国際（SMS端末認証課題がSG11/SG2等）にて上がってきており要検討。 ・ITU-T SG11では**QKDNの高機能化に必要なQKDNの制御と管理等のプロトコル、大規模化に必要なQKDNインタワーキングのプロトコル**等の標準化を進めている。 これら今後ITU-Tで完成する**QKDNプロトコル標準**を、2026年に更に順次JT標準として制定していく。
関連する専門委員会または外部組織とその内容	・国内電話通信事業者間のNNI信号（SIP信号）はSWG1203で引続き対応。 ・国内電話事業者につながる端末等のUNI信号に関わる課題等の国際標準（3GPP）や、業界（CIAJ等）等との連携については手薄感があり、連携を模索。 ・量子鍵配送ネットワーク（QKDN）技術については、NICTと、NEC，東芝などの国内ベンダ、NTTなどのネットワークオペレータで国際標準化提案。SWG1205も連携。

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	件数未定	-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG11　3月会合		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	（PSTNマイグレーション関連ドキュメントの改版、その他件数未定）		
	TS/TR/SR	（PSTNマイグレーション関連ドキュメントの改版、その他件数未定）	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	（QKDN関連ドキュメントのJT標準化、その他件数未定）	JT制定	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	電気通信番号のシグナリングセキュリティ等に関する合同ワークショップ（3GPP，CIAJなど連携）を検討		
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告（Springほか） SG11 会合報告（Springほか）		

一般社団法人
情報通信技術委員会

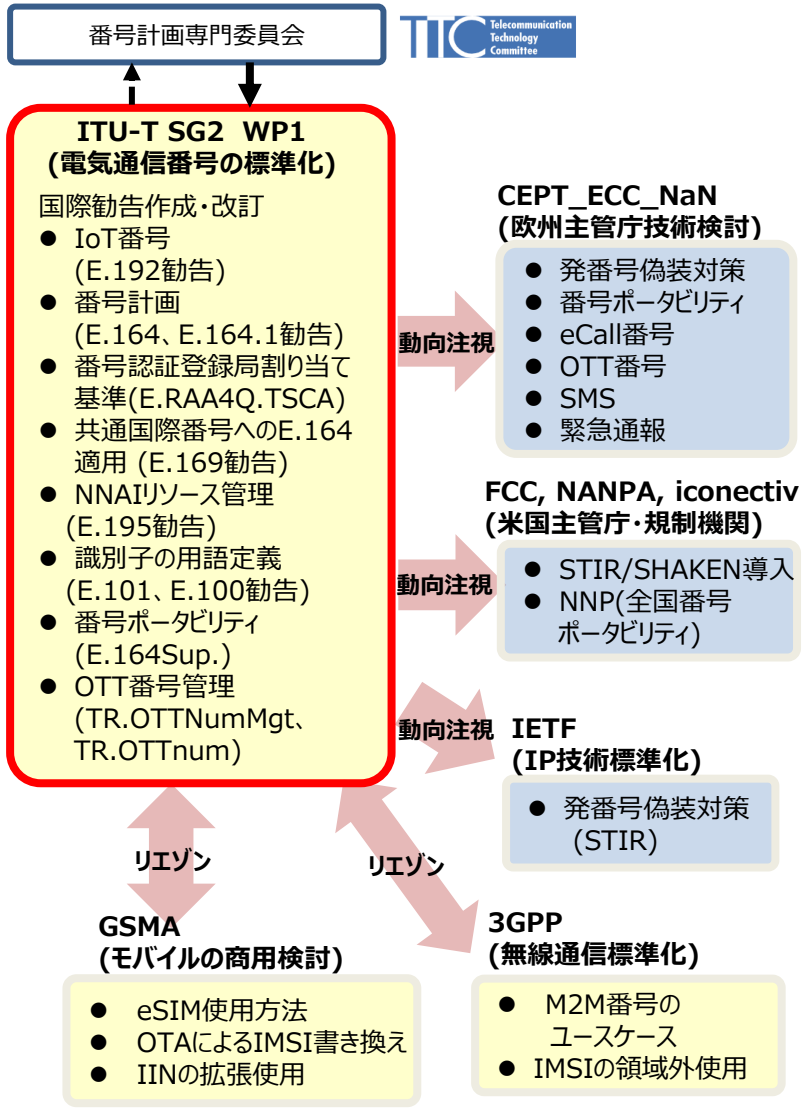
番号計画専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	番号計画専門委員会	1/3

企画戦略委員	原 美永子（NTT）	登録委員数	委員：19、 会社（大学）：7
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長： 倉内 努（NTT） 副委員長： 夏目 基（NTTドコモ）	担当するSG・WP等	ITU-T SG2 WP1 （WP2は網管理委員会にて対応）

活動の目的・意義 ・めざすゴール	IoTサービスやOTTサービスの進展とグローバル化ならびにIPマイグレーションの進展、6Gへの展開等による番号計画上の対応（新規・改訂勧告の策定）、番号詐称などの問題に対する国際的な取り組みへの対応を、関連する分野の専門組織と連携しながら進め、今後のサービスの発展に向け有限な番号リソースが有効に活用されることを目的とする。
活動する上での課題 （人材面や運用面での課題を含む）	ITU-T SG2で扱っている番号関連課題のエキスパートが少なく属人的な対応となっているため、必要に応じて各企業・組織での中長期的な人材育成、および運用面での柔軟な対応が求められる。
関連のSDGsゴール	9 11 17
標準化方針	• 国内動向に関連する番号関連標準の作成、修正等の必要性については、ITU-T SG2に加え、関連する標準化団体、欧州及び米国の番号主管庁・規制機関等の動向を見極め、判断を行う。 • 上記判断により、必要に応じてTTCドキュメント作成・改訂に着手する。
国内外の標準化団体等の動向	ITU-T SG2 WP1では、新規技術に対応するための既存番号関連勧告の改訂検討、及び、OTT番号、IoT番号、番号利用の適正化、NNAIリソース管理、番号ポータビリティ・キャリアスイッチング、番号認証の登録局の割り当て基準等の課題に関する勧告化を検討。 IETFでは、発番号偽装対策方法を検討するSTIR（Secure Telephone Identity Revisited）WGにて、技術的な議論が継続されている。 欧州郵便電気通信主管庁会議（CEPT）配下のECC-NaN（Numbering and Networks）では、番号の技術的検討を実施。 米国の番号主管庁・規制機関であるFCC, NANPA, iconectivでは、発番号偽装対策のSTIR/SHAKEN導入、NNP（全国番号ポータビリティ）、番号逼迫対策などの課題が幅広く検討されている。



中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	番号計画専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	1. ITU-T SG2 WP1での検討課題（**IoT番号、E.164改訂、E.164.1改訂、番号の誤用報告、IMSI・IIN**、OTT番号、キャリアスイッチング/番号ポータビリティ、各種番号リソースの割当申請、**AIを用いた災害マネジメント（TR、FGのアウトプット）**、番号認証のメカニズム（登録局規定）等）に対し、全体会合及び関連するラポータ会合における各国の動向に注視し、ダウンストリーム活動を実施 2. 国内での番号方式に関する普及活動として、TTCレポート・ITUジャーナル等への投稿を実施。
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 特になし

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件	0件	
	外部会合への 参加・連携状況	• SG2会合（12月）に参加、適宜意見交換も行う。 ※ラポータ会合に適宜参加、意見交換も行う。	• Q1,2,3/2ラポータ会合（8月-9月）およびSG2全体会合（9月）の動向把握 • SG2全体会合（2月）の動向把握	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件	0件	
	TS/TR/SR	0件/1件/0件	0件/0件/0件 （来年度計画に延期）	
③ ダウンストリーム	数	TR制定：1件 E.1120：グローバルリソース申請手順勧告の翻訳 （E.1120は勧告であるが国内標準として仕様を規定するものではなく、（Appendixを）参考情報として提供する）	TS制定、TR制定: 0件 （来年度計画に延期）	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	番号政策・将来番号方式等に関するセミナーの企画によるプロモーションの実施	E.164、E.192等の主要勧告の制定/改訂が延期されたため、来年度計画に延期	
	記事投稿、講演会	TTCレポート、ITUジャーナル等への投稿による普及活動を実施	TTCレポート（2025春/夏号）、ITUジャーナル（2025年6月号）への投稿	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	番号計画専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	1. ITU-T SG2 WP1での検討課題（**IoT番号、E.164改訂、E.164.1改訂**、グローバルサービス用番号体系の適用、国際番号リソース管理、OTT番号、キャリアスイッチング/番号ポータビリティ、各種番号リソースの割当申請、番号認証のメカニズム（登録局規定）等）に対し、会合及び関連するラポータ会合に参加し、動向を注視するとともに必要に応じてアップストリーム/ダウンストリーム活動を実施。OTT番号、番号ポータビリティ、番号認証のメカニズム（登録局規定）に関する各国の取り組み、及び、発番号の認証などのメカニズムに対する各国の動向に注視し、必要に応じてダウンストリーム活動を実施する。 2. 国内での番号方式に関する普及活動として、TTCレポート・ITUジャーナル等への投稿を実施。
新テーマ	• ITU-T SG2 WP1での新規作業項目（グローバルサービス用番号体系の適用（E.169改訂）、国際番号リソース管理（E.195改訂）、国際的な発信禁止番号（DNO）情報を共有するための技術的・政策的要件に関するテクニカルレポートTR.DNO）について動向を注視する
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 特になし

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	0件	-	
	外部会合への 参加・連携状況	• SG2全体会合（9月）の動向把握 • Q1,2,3/2ラポータ会合（未定）の動向把握 • SG2全体会合（3月）の動向把握		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/1件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TR制定：1件 E.1120：グローバルリソース申請手順勧告の翻訳 （E.1120は勧告であるが国内標準として仕様を規定するものではなく、参考情報として提供する）	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	番号政策・将来番号方式等に関するセミナーの企画によるプロモーションの実施		
	記事投稿、講演会	TTCレポート、ITUジャーナル等への投稿による普及活動を実施		

網管理専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

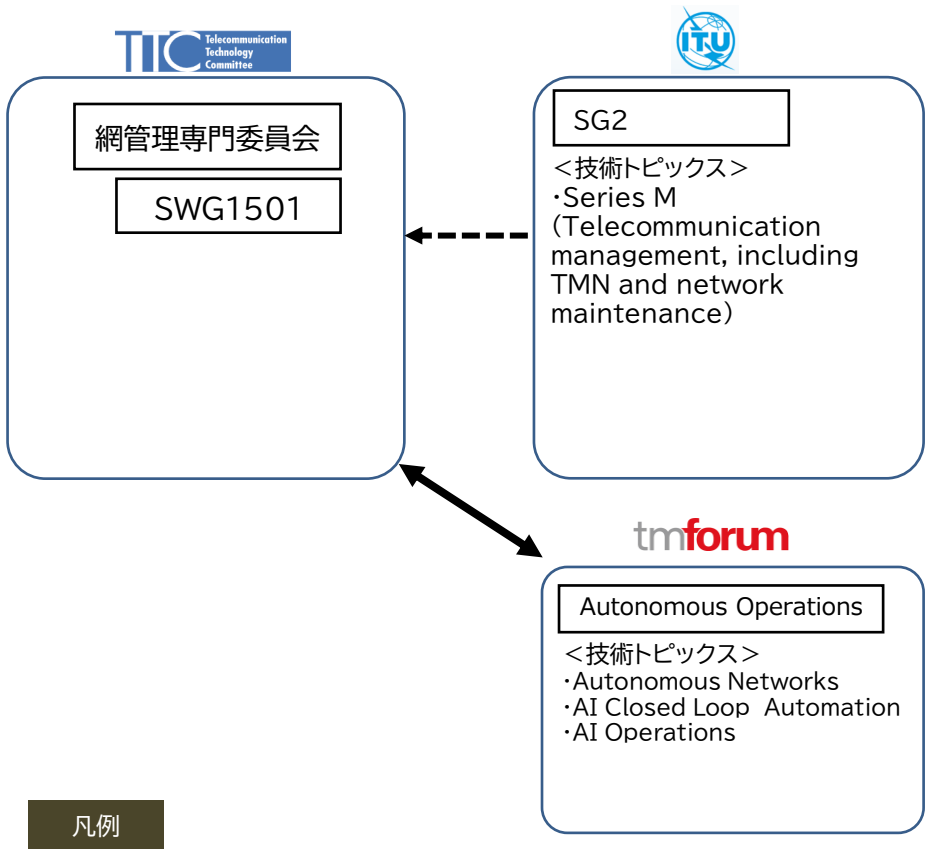
専門委員会・AG名	網管理専門委員会・SWG1501	1/3

企画戦略委員	中村　信之（OKI）	登録委員数	8委員/5社（特別委員0名）
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長：高呂 賢治（OKI）、副委員長：清水　智明（NTTドコモソリューションズ）	担当するSG・WP等	ー

活動の目的・意義 ・めざすゴール	• Open RANやエッジコンピューティングなどの本格化な展開、光NWの高性能化、AI技術の急速な進展などにより、運用管理面の課題検討や標準化のニーズが更に高まっている。 • 具体的には、NWのCloudNative化、All Photonics NW対応、省電力を志向した運用管理、IntentやDigital Twin、更には近年急速に発展しているLLMをはじめとした各種AI技術のNWオペレーション適用による運用の高度化などに関連する標準化ニーズが顕在化しつつある。 • 本状況を踏まえ、網管理関連の標準化活動及び最新技術の情報発信に貢献していく。
活動する上での課題 （人材面や運用面での課題を含む）	• 労働人口減少を迎え、NWを含むICT基盤はこれまで以上に社会基盤としの重要性が高まっており、その運用管理の効率化・自動化は喫緊の課題であり、またカーボンニュートラルに向けて運用管理においても省電力が課題となるなど、積極的に標準化ならびに動向調査を進める必要がある。 • ITU-T　SG2で主に検討されているAI活用やスマートメンテナンス関連の内容は、網管理に特に関係することから注視が必要である。
関連のSDGsゴール	7　9　17
標準化方針	• TMF（TMForum）等を中心に各種団体における標準化の動向調査を行う。ITU-Tでは、SG2を中心にAI、スマートメンテナンス、メンテナンスロボット、インテント、ブロックチェーン、運用測定等の関連の検討がされており、その勧告化時期を見極めながらTTC標準化を行う方針で、関連するTTC専門委員会の合意を経て、TTC標準化（ダウンストリーム）を実施する。
国内外の標準化団体等の動向	• TMFでは、Autonomous Networksに代表されるハイブリッドネットワークのオペレーション自動化やパートナー連携に必要なオペレーションAPIと合わせて、Open Digital Architecture（ODA）やAI/データ分析の適用を検討しており、更にONFやMEF等との連携も強化している。ITU-Tでは、SG2を中心にAI、スマートメンテナンス、メンテナンスロボット、インテント、ブロックチェーン、運用測定等の関連の検討がされている。AI関連としては、AITOM（artificial intelligence enhanced telecom operation and management）を中心に、各種管理要件が検討されている。

活動体制の図解

（専門委員会/SWGと対応するSG/技術トピックス、関連する団体等）



凡例

- - - - ▸ ダウンストリーム（国内標準作成等）

◂———▸ 動向調査

中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	網管理専門委員会・SWG1501	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	ITU-Tでは5G-RAN、AI、省電力化、ブロックチェーン、スマートオペレーションなどの勧告が予定されており、**Mシリーズの勧告化時期や内容を調査検討**し、TTC標準化に向けた翻訳作業を実施、**JT-M3385「AI拡張テレコム運用管理インテリジェンスレベル評価フレームワーク」として、年度内に制定予定**
関連する専門委員会または外部組織とその内容	

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数		-	
	外部会合への 参加・連携状況	・TMForum関連会合（Action Week、Digital Transformation World等）対応者との連携	-	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件 ITU-T　SG2 関連のドラフト勧告の動向調査	0件/0件/0件 ネットワーク運用管理へのAI適用に関連するドキュメントを中心に、その他、スマートオペレーションやオンサイト関連の制定状況を共有、議論	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回 ・1件ダウンストリーム完了予定 ・次期制定に向けたダウストリーム対象の選定	TS制定：1回 TR制定：1回 ・1件（ITU-T M.3385「Intelligence levels evaluation framework of artificial intelligence enhanced telecom operation and management」をベースに、**AI拡張テレコム運用管理インテリジェンスレベル評価フレームワーク」として制定予定** ・次期ダウンストリーム対象について議論中（年度内選定）	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	継続検討	-	
	記事投稿、講演会	TTCレポート投稿	-	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	網管理専門委員会・SWG1501	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	ITU-Tでは、SG2を中心にAI、スマートメンテナンス、メンテナンスロボット、インテント、ブロックチェーン、運用測定等の関連の検討がされており、その勧告化時期を見極めながらTTC標準化を行う方針で関連するTTC専門委員会の合意を経て、**TTC標準化（ダウンストリーム）を実施。2025年度に引き続きネットワーク運用管理へのAI適用関連の勧告を中心にダウンストリームに取り組む**
新テーマ	
関連する専門委員会または外部組織とその内容	

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数		-	
	外部会合への 参加・連携状況	・TMForum関連会合（Action Week、Digital Transformation World等）対応者との連携		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件 ・ITU-T　SG2 関連のドラフト勧告の動向調査	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回 ・1件ダウンストリーム完了予定 ・次期制定に向けたダウストリーム対象の選定	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	2026年度内に1件開催予定		
	記事投稿、講演会	TTCレポート投稿		

中期標準化戦略（概要と目的）

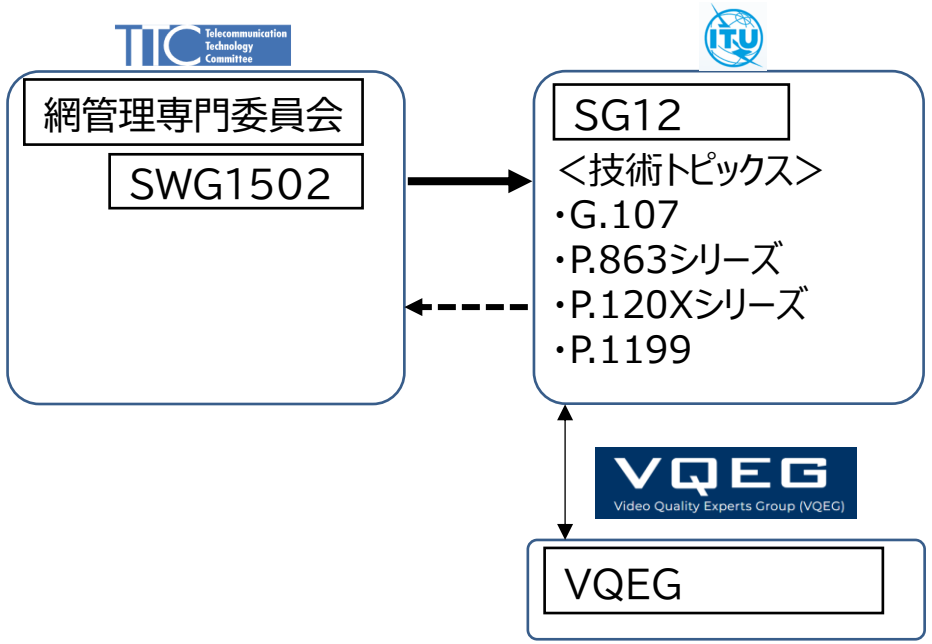
専門委員会・AG名	網管理専門委員会・SWG1502	1/3

企画戦略委員	中村　信之（OKI）
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長：高呂 賢治（OKI）、副委員長：清水 智明（NTTドコモソリューションズ）
活動の目的・意義 ・めざすゴール	5Gや6G時代の通信サービスを安定供給するための品質評価法の整備. 特に, 自動運転や重機など, 音声や映像品質が良いという観点だけでなく, 監視や操作といったレベルの評価が重要. またIoTのように多数の機器が同時接続した際の品質検討を実施していくことが重要.
活動する上での課題 （人材面や運用面での課題を含む）	昨今, 欧州を中心に進められている品質検討に, 日本が発言権を持つよう活動しなければならない. **SG12の審議はWPごとに並列審議されるため, 参加機関がNTTのみのため動向把握が限定される.**
関連のSDGsゴール	9 産業と技術革新の基盤をつくろう　16 平和と公正をすべての人に
標準化方針	• 既存の音声通話サービスに関する標準化勧告の維持, 動向把握及, 国内標準への反映 • 従来の音声・映像品質に加え, 監視や操作性といった観点での標準化勧告が必要 • eMBB, URLLC, mMTC上で提供される通信サービスやIoT時代の品質検討の加速 • 海外の関連標準化組織との連携（ITU-R/Tの連携, 3GPP, BBF, IEEE, VR-IF等） • 生成AIに関連するワークアイテムなど新たなワークアイテム・スタディアイテム、技術動向、トレンドの全体的な意見交換 • 上記の標準化アイテムの概要を取り纏め資料の活用や情報展開について本委員会で検討・推進
国内外の標準化団体等の動向	ITU-T SG12では、IP電話／IPテレビ電話・会議／IPTV・映像配信／遠隔監視等の各種通信サービスの品質評価法に関する国際標準化が進められており, これら標準化動向を積極的に把握.

登録委員数	15委員/5社（特別委員2名を含む）
担当するSG・WP等	ITU-T SG12

活動体制の図解

（専門委員会/SWGと対応するSG/技術トピックス、関連する団体等）



中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	網管理専門委員会・SWG1502	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	• JJ-201.01にも関連するITU-T勧告G.107やP.863シリーズ，映像配信サービスの品質評価技術である勧告P.120Xシリーズの標準化動向や技術拡張に引き続き積極的に寄与 • **自動運転車の遠隔管制室に適用可能な物体認識率推定技術の検討に積極的に寄与**
関連する専門委員会または外部組織とその内容	

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	3件	7件	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG12： 1月，9月	ITU-T SG12： 1月，9月	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	JJ-201.01改訂、JJ-201.11改訂	JJ-201.01改訂、JJ-201.11改訂	
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS： 回 TR： 回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	継続検討	-	
	記事投稿、講演会	TTCレポートにSG12会合の結果報告の記事を投稿	TTCレポートにSG12会合の結果報告の記事を投稿	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	網管理専門委員会・SWG1502	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	• JJ-201.01にも関連するITU-T勧告G.107やP.863シリーズ，映像配信サービスの品質評価技術である勧告P.120Xシリーズの標準化動向や技術拡張に引き続き積極的に寄与 • **昨年度勧告化した自動運転車の遠隔管制室に適用可能な物体認識率推定技術の拡張に積極的に寄与**
新テーマ	
関連する専門委員会または外部組織とその内容	

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	1件		
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG12：2026年6月，2027年1月		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	継続検討		
	記事投稿、講演会	TTCレポートにSG12会合の結果報告の記事を投稿		

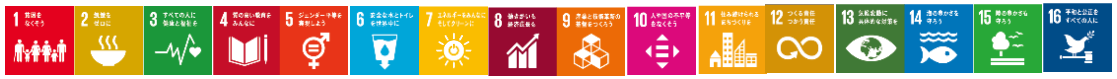
一般社団法人
情報通信技術委員会

Network Vision専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

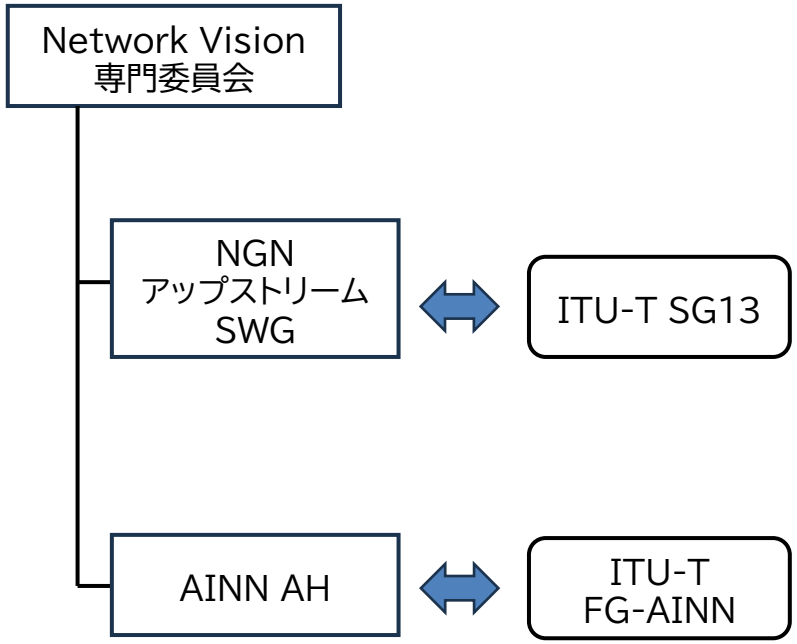
専門委員会・AG名	Network Vision専門委員会	1/3

企画戦略委員	畑中 芳隆（NTTドコモ）	登録委員数	43委員（16会員）
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長：後藤 良則（NTT-AT） 副委員長：Leon Wong （楽天モバイル）	担当するSG・WP等	ITU-T SG13

活動の目的・意義 ・めざすゴール	• Future Networks（ITU-T SG13）などの国際・国内標準化活動をリードし、プレゼンスを発揮する。 • CJK IT Standards Meeting 配下 NSA-WG*にて、日中韓（TTC,CCSA,TTA）で意見交換/整合を行い、国際標準化に向けての活動を促進する。 *NSA: Network and Service Architecture • IMT-2030ネットワークの将来網実現に向けた要件について 信号制御、AI活用、IoTエリアネットワーク、IOWN GFの各専門委員会と連携した検討
活動する上での課題 （人材面や運用面での課題を含む）	• NWの自律化等、NetworkとAIの密結合化に対応した活動の在り方検討。 • QKDNを含む、量子暗号への対応。 • OPEN Source、Operation等の検討を進めている各種フォーラムとの連携、情報収集の在り方検討。 • IMT-2030将来網とIMT-2020を含む現行NWとの相互運用の在り方検討。
関連のSDGsゴール	
標準化方針	• 将来網に関するアップストリーム活動を総務省と連携し推進する。 • IOWN GF技術のITU-T勧告化に取り組む • 新設FG AINN等自律型NW管理の実現に向けた課題の情報収集/分析、検討とアップストリーム活動。 • Beyond 5G、量子鍵配送について、専門家と連携して活動する。 • SG13勧告のダウンストリームは、会員要望に応じて対応し、制定済TTC標準並びに技術レポートの更新は、ITUの検討状況に応じて行う。 • CJK NSA-WG対応に際して、必要に応じ他専門委員会と連携する。 • 信号制御専門委員会でのSG11へのアップストリーム活動に連携する。
国内外の標準化団体等の動向	• NWソフト化、自律化等NW内AI適用に関連した、将来網の要件、アーキテクチャ、機能の議論が、SG13/FGをはじめ、ETSI、TM Forum、ISO/ISC等で継続。 • Big DATA、Cloud、DAN、ICN/CCN、Trust等、SG13での研究が継続。 • CJK NSA WGにて、Smart city、AI等の各種技術/用途における、中国、韓国との情報交換も継続。（CJK-17より：COVID-19の為、中断）

活動体制の図解

（専門委員会/SWGと対応するSG/技術トピックス、関連する団体等）



中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	Network Vision専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	**専門委員会** • 他専門委員会、AGと連携して、CJK NSA-WGの対処を行う。（今年度も、CJKは未開催） • 2030年を見据えた、将来網の在り方や、要件に関して信号制御、AI活用、移動通信網マネジメント、IoTエリアNWの各専門委員会と連携した検討。 • IOWN関連技術のITU-T勧告化に向けた検討推進。 **NGNアップストリーム SWG** • ITU-T SG13会合への対処方針並びに、寄書審議を実施し、TTCメンバからの提案調整を実施。 • QKDN、Autonomous NW関連課題の検討/寄書作成を行い、SG13へのアップストリーム活動を実施。 **AINN AH** • FG AINNへの対応を実施。
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• Security専門委員会（QKDN関連） • 信号制御専門委員会（CJK対応） • 信号制御、AI活用、移動通信網マネジメント、IoTエリアネットワークの各専門委員会（2030年を見据えた将来網検討） IoTエリアネットワーク専門委員会でのユースケース検討結果を受けてのWI検討 • IOWN GF専門委員会（将来網に関するITU-T勧告化）

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	SG13 :-	SG13:5件（SG会合のみ寄書審議を実施）	
	外部会合への 参加・連携状況	SG13 :-	SG13:2025年7月（JRG会合）、2025年10月/11月、 2026年2月（JRG会合）	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	-		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	-	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	-		
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告 SG13 会合報告（未定）		

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	Network Vision専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	・AI native networkについてはAINN AHを中心にFG- AINNへの対応を通じた検討を推進する。 ・QKDについては国内の専門家と連携し勧告作成を推進する。 ・低遅延、低消費電力ネットワークについてはIOWN GFなどの動向を把握し、勧告化を推進する。
新テーマ	• 将来ネットワークに関する新テーマの検討を推進する。
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 勧告案Y.L2E2net-frm及び関連する勧告案についてはIOWN GF専門委員会と連携。

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	SG13:-	-	
	外部会合への 参加・連携状況	SG13（JRG会合含む）3回（見込み）		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー			
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告 SG13 会合報告（未定）		

IOWN GF専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	IOWN GF専門委員会	1/3

企画戦略委員	武田　洋樹（KDDI）	登録委員数	55委員（12会員）
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長：山本 浩司（NTT）　副委員長：林 通秋（KDDI）	担当するSG・WP等	ITU-T　SG5, SG12, **SG13**, SG15, SG17, SG21

活動の目的・意義・めざすゴール

- IOWN GFで取り扱われる技術課題を対象に以下の活動を行い、ALL光ネットワークの実現に向けてのプレゼンスを発揮しながら、IOWN GFが掲げる構想や制定技術を世界中に普及させるため、ITU-Tをはじめとするデジュール標準化を目指す。
  - ITU-Tへの国際標準提案活動（アップストリーム）を行う
  - ITU-T既存ドキュメントとのギャップ分析と必要に応じ、検討結果を文書として作成し公開する
  - 日本国内でのIOWN GF 技術実装に向け、適宜ダウンストリーム活動を行う
- 若手人材の育成を目的に、IOWN GF で制定されるユースケースや技術やに関する勉強会やセミナー等の企画と実行を行う。

活動する上での課題（人材面や運用面での課題を含む）

All Photonic Network (APN)実現に向けた各種技術課題の抽出
Optical Transport Network (OTN)やOpen ROADMなど関連する技術や企画とのギャップ分析
データセンタネットワークやデジタルツインなどIOWN GFが扱う幅広い技術領域の取扱いと専門人財

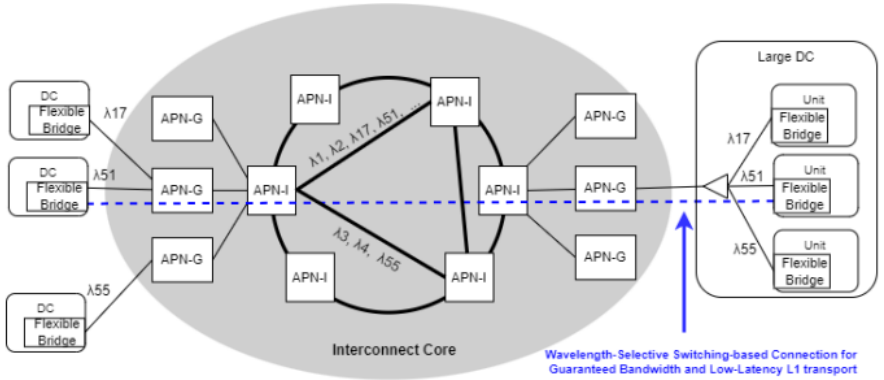
関連のSDGsゴール

標準化方針

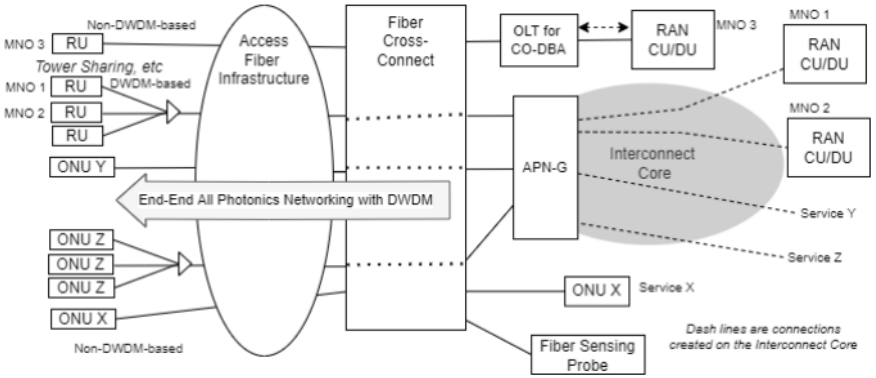
- 将来網に関するアップストリーム活動を総務省と連携し推進する。
- IOWN GF技術のITU-T勧告化に取り組む。
- ITU-Tへのアップストリーム活動における当面の対象として、SG5, SG12, SG13, SG15, SG17, SG21 を想定する。
- IOWN GFに関わる技術課題に関する関連SGへの寄書と対処方針を議論し合意形成を図る。なお各SGのリード専門委員会で承認手続きを行う。
- 当面は専門委員会のみの構成とし、必要に応じてSWG 設置について検討を進める。

国内外の標準化団体等の動向

- ETSI ISG F5Gでは次世代ネットワークに向けたプロトコルのポートフォリオとアーキテクチャを検討しており、F5G advancedではAll Optical Networkが主要テーマとなっている。
- 光インターコネクト技術では、OIFが高速・長距離化やチップ組込（CPO）等の規格化を検討しており、Open XR forumでは全光ポイントーマルチポイントインタフェースの規格化も進展。
- APNのノード技術では、Open ROADM MSAがノード管理に関わるOpen API規定等を進めている。



IOWN GFアーキテクチャによる基幹網構成例



IOWN GFアーキテクチャによるアクセス網構成例

出典：Innovative Optical and Wireless Network Global Forum Vision 2030 and Technical Directions

中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	IOWN GF専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	• IOWN関連技術のITU-T勧告化に向けた検討推進と寄書の作成/提出。 • SG13におけるIOWN GF活動の認知度の向上とアップストリームパスの強化（IOWN GF活動やSG13活動方針の紹介） • APN等IOWN GFに関わるアーキテクチャ検討に向けたワークアイテムの提案、議論を進める。
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 伝送網・電磁環境専門委員会（SG5、15）、IoT・スマートシティ専門委員会（SG5）、網管理専門委員会（SG12）、Network Vision専門委員会（SG13）、セキュリティ専門委員会（SG17）、マルチメディア応用専門委員会（SG21）

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	SG13 ：2件	SG13：4件（5月オンライン、7月ジュネーブ、10月タシケント）	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG13 （10月　見込） ITU-T SG13中間会合 （2月　見込）	ITU-T SG13 Q22中間会合（5月オンライン） ITU-T SG13 WP会合（7月ジュネーブ） ITU-T SG13会合（10～11月タシケント）	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件（予定しない）		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	-		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	TTCセミナー（IOWN Global Forum活動紹介）（未定）	TAICS-TTC Collaborative workshop ～次世代通信産業技術-IOWNと5G O-RANの技術動向～（5/23）	
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告（未定） SG13 会合報告（未定）		

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	IOWN GF専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	• IOWN関連技術のITU-T勧告化に向けた検討推進と寄書の作成/提出（**APNフレームワーク勧告について今年度中の制定を目指す**） • SG13におけるIOWN GF活動の認知度の向上とアップストリームパスの強化（IOWN GF活動やSG13活動方針の紹介）
新テーマ	• APNフレームワーク勧告制定に引き続き，社会実装につなげるためのアーキテクチャ勧告の検討着手
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 伝送網・電磁環境専門委員会（SG5、15）、IoT・スマートシティ専門委員会（SG5）、網管理専門委員会（SG12）、Network Vision専門委員会（SG13）、セキュリティ専門委員会（SG17）、マルチメディア応用専門委員会（SG21）

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	SG13 3件（予定）	-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG13 （6~7月予定） ITU-T SG13RGM+WP会合（10~11月予定） ITU-T SG13 （2~3月予定）		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件（予定しない）		
	TS/TR/SR	1件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	-	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	TTCセミナー（IOWN Global Forum活動紹介）（未定）		
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告（未定） SG13 会合報告（未定）		

一般社団法人
情報通信技術委員会

モバイル専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	モバイル専門委員会	1/3

企画戦略委員	畑中 芳隆（NTTドコモ）、武田 洋樹 （KDDI）	登録委員数	53名 17社
委員長・副委員長	委員長　横田 大輔（ソフトバンク）、副委員長　傳寳 浩史（NEC）	担当するSG・WP等	担当するITU組織はなし

活動の目的・意義・めざすゴール

- 移動通信全般に係わる課題において、3GPP本体を含めた国際標準化組織との連携・寄与、TTC内の他委員会、ARIBを含めた移動体関連組織、業際的な関連組織（3GPP MRP*等）との協調・連携に取り組む。
- 3GPPが策定した技術仕様書は、世界の7つのOPが国内（地域）標準として制定して正式な標準としての効力を持つ。したがって、本専門委員会が、国内標準のTTC仕様書とするためのダウンストリーム作業を行い、3GPPの組織的パートナーとしての役割を遂行する。これにより、ITU-T参照標準に向けた土台を整える。
- 3GPPの主にアーキテクチャ、コアネットワークに関するワークアイテム・スタディアイテムと、技術仕様策定グループ（TSG）会合の状況を共有し、メンバー企業の標準化戦略策定、及びサービス／製品開発に国際標準を活用できるようにする。
- 3GPP日本会合のための負担金を決定し、運営を管理する（3GPP IM-SWGに委任）。
- 3GPP組織運営のためのプロジェクト予算に関する決定を行う。
- 3～5年後のゴールとして、6Gのコアネットワークに関する標準化動向を発信する中心的な役割を担う。

*3GPP MRP：Market Representation Partners, 3GPPのパートナーとして登録された業界関連組織

活動する上での課題（人材面や運用面での課題を含む）

- 移動通信の利用を検討する関連業界団体との連携の要否や方法
- 移動通信を利用するTTC内専門委員会との連携の在り方
- 3GPPにおける6G仕様検討開始を受けて、3GPP専門委員会として動向を注視開始

関連のSDGsゴール

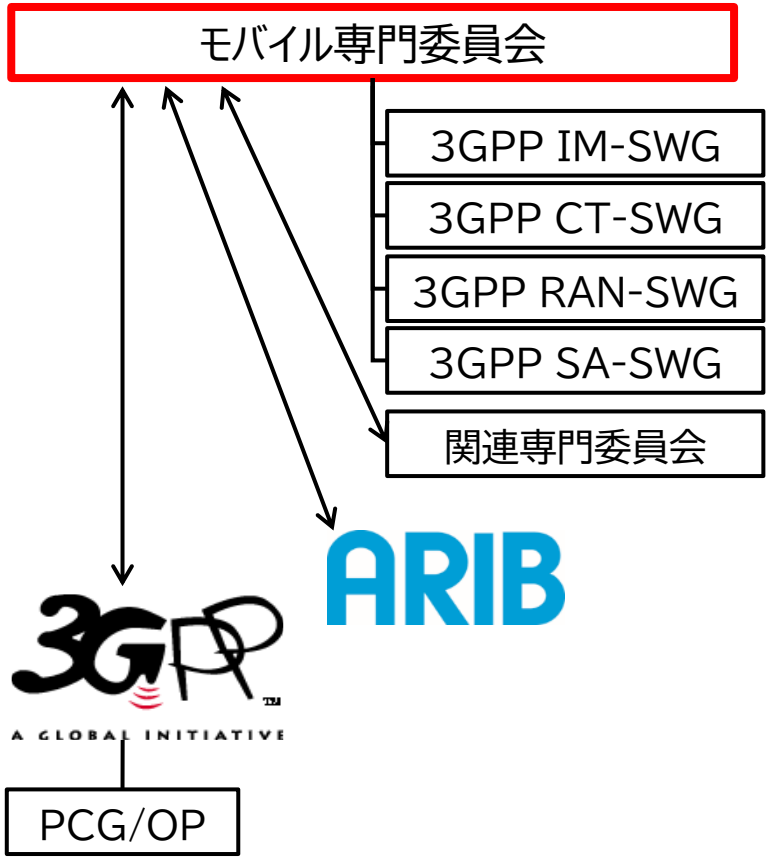
標準化方針

- 3GPP PCG/OPの運営をサポートすると共に運営課題に対して必要に応じて関連専門委員会、ARIBと連携しSDOとして対応する。また、5Gや5G Advanced、6Gの技術仕様策定状況を適宜TTC内関連専門委員会に共有を図っていく。
- 3GPP-TSGを中心とした移動通信の国際標準化活動に関する情報共有と意見交換及び関連技術を議論する。
- 3GPPて承認された仕様を、TTC仕様書として制定する。（ダウンストリーム活動）
- 年4回（6,9,12,3月）の専門委員会会合の開催、及び年4回（6,9,12,3月）の3GPP仕様書ダウンストリームを予定。
- 国内では、5G商用サービスが開始されており、5Gの特長である異業種との連携も含めた5Gサービスの普及を促進する。
- 他国内標準化組織との連携による移動通信標準化作業を促進する。具体的には、ARIB、CIAJなどとの連携やTTC内関連専門委員会との連携を図りつつ活動する。
- 海外の関連標準化組織（ITU-T/R, IEEE, IETF, BBF, GSMA等）との連携に配慮する。

国内外の標準化団体等の動向

<u>3GPP</u>

- 5G Advancedの機能拡張を中心としたRel-19仕様策定が完了。（2025年9月）
- 6Gのユースケースやサービス要件、アーキテクチャ、セキュリティ、チャージングなどに関するRel-20スタディアイテムが承認され、それぞれのワーキンググループにおいて検討が進行中。（2024年5月～現在）



中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	モバイル専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	• TTC内の移動通信網マネジメント専門委員会と3GPP専門委員会、Network Vision専門委員会、コネクテッド・カー専門委員会、AI活用専門委員会、国内SDOのARIB、海外SDOのATIS、CCSA、ETSI、TSDSI、TTA、国際標準化団体の3GPP、及び特に移動通信の利用を検討する関連業界団体の間に立ち、標準化を円滑に進めるに当たって必要となる組織間調整やマネジメント会合への参加を始めとしたアクションの実施 • 3GPP Working Procedureの改訂などを中心とした3GPP PCG/OP会合対処方針の検討、TTC/ARIB間の意見集約と3GPPへの提言 • 2026年3月の3GPP TSG日本会合開催に向けたホストとしての準備対応
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 移動通信網マネジメント専門委員会と3GPP専門委員会の間で密に連携し、5G標準化の最新動向に関するTTCセミナーの企画検討

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	0件	0件	
	外部会合への 参加・連携状況	・3GPP: TSG Plenary (4回), PCG/OP会合（2回）	・3GPP: TSG Plenary (4回; 6月、9月、12月、3月） PCG/OP会合（2回; 4月、10月）	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS/TR 4回 (四半期毎) ITU-R勧告の改定に際し制定情報をITU-Rへ提供 M.2012-7: M.2150-3:	TS制定: 464件 （第4四半期を除く） TR制定: 6件 ITU-R勧告の改定に際し制定情報をITU-Rへ提供 M.2012-7:221、M.2150-3 RIT:100, SRIT:200	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	策定が完了したRel-18仕様や、Rel-19仕様及び6G仕様の展望に関する勉強会またはTTCセミナーの開催を検討する。	3GPP Rel-18仕様を中心とした「TTCセミナー 3GPP 5G Advanced標準化と応用研究が拓くモバイル通信の未来」と題したセミナーを企画開催、298人を集客し好評を得た。	
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告、積極的に関連業界誌等への寄稿を検討	無し	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	モバイル専門委員会	3/3

新テーマ及び重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	• TTC内のNetwork Vision専門委員会、コネクテッド・カー専門委員会、国内SDOのARIB、海外SDOのATIS、CCSA、ETSI、TSDSI、TTA、国際標準化団体の3GPP、及び特に移動通信の利用を検討する関連業界団体の間に立ち、標準化を円滑に進めるに当たって必要となる組織間調整やマネジメント会合への参加などのアクションの実施 • 3GPP Working Procedureの改訂などを中心とした3GPP PCG/OP会合対処方針の検討、TTC/ARIB間の意見集約と3GPPへの提言 • 3GPP TSG会合（3, 6, 9, 12月）を受けて、モバイル専門委員会会合を開催し、TSGでの主要課題等の動向を共有しつつ、技術議論する。 • 年4回、ダウンストリーム活動を実施する。3GPPて承認された仕様書をTTC仕様書として制定、モバイル専門委員会会合で承認する。 • 若手人材育成のために、6G動向に関する勉強会やセミナー等を企画し実行していく。
新テーマ	• 6Gのユースケースやサービス要件、アーキテクチャ要件、プロトコル要件など、6G標準化に関わる動向把握とセミナー等を通じた発信
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• Network Vision専門委員会やコネクテッド・カー専門委員会などと連携し、適宜移動体通信系の標準化動向に関する情報提供、意見交換や合同セミナーなどの協調イベントの実施を検討 • 6G技術仕様策定の最新動向に関するTTCセミナーの開催、関連業界誌への寄稿、イベントでの講演等を検討

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	0件		
	外部会合への 参加・連携状況	・3GPP: TSG Plenary (4回), PCG/OP会合（2回）		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件		
③ ダウンストリーム	数	TS/TR 4回（四半期毎）		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	策定が完了したRel-19仕様や、6G仕様の展望に関する勉強会またはTTCセミナーの開催を検討する。		
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告、積極的に関連業界誌等への寄稿を検討		

一般社団法人
情報通信技術委員会

IoTエリアネットワーク専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	IoTエリアネットワーク専門委員会	1/3

企画戦略委員	中村　信之（OKI）	登録委員数	18
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長：美原　義行（NTT）、 副委員長：高呂　賢治（OKI） （SWG3603リーダー：美原（NTT）、SWG3604リーダー：高呂（OKI））	担当するSG・ WP等	ITU-SG15 Q3

活動の目的・意義・めざすゴール

IoTエリアネットワーク（IoT-NW）の通信方式とデバイス/データモデルに関する技術調査・検討、標準化活動を実施
- 目的：IoT-NWにおける通信方式や管理モデルを調査・検討し、標準化活動に寄与する
- 意義：IoTエリアネットワークにおける通信サービス・モデル展開の拡充に寄与する
- ゴール：家庭・オフィス・屋外（車両）で、多様な機器を共通のデータモデルでつなぎ、一元管理で環境を自在に制御できる、真にユーザフレンドリーな世界を実現する

活動する上での課題（人材面や運用面での課題を含む）

- IoTエリアネットワークの高度化と普及には、技術標準化と相互運用が不可欠だが、現状は業界団体・メーカー主導や海外デファクトが先行
- 将来の相互接続の不整合を避けるため、国内外の標準化促進と、スマートIoT推進フォーラム等関係団体の横断連携が求められる
- サービス実装と運用効率化のため、クラウド/Web型のサービスプラットフォームで端末参照・制御/遠隔運用を進める必要がある
- 今後、普及が見込まれるフィジカルAIの早期実現に向け、センシングと制御を支えるIoTエリアネットワークを要件起点で設計し、時流に適合する標準プロトコル化を推進する

関連のSDGsゴール

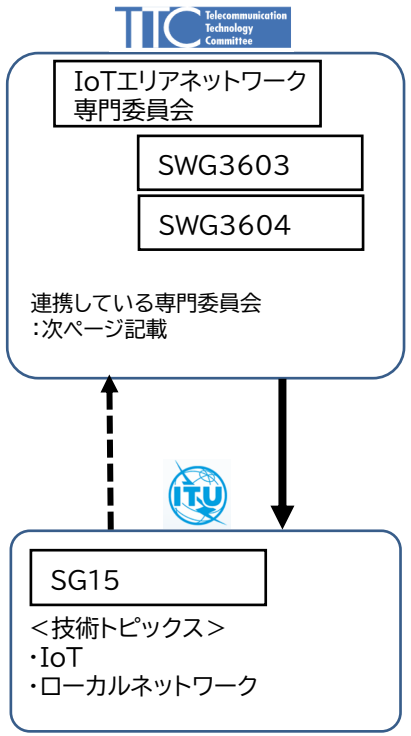
標準化方針

スマートIoT推進フォーラム技術標準化分科会と連携し、**ITU-T SG15**の勧告化や**W3C**整合を図る。各標準化団体の動向を踏まえ、**日本で必要な事項を明確化した標準制定**を強化。

各SWGの狙い：
① **高需要デバイスの接続規格化**：スマートメータや橋梁・道路監視センサなどのインフラモニタリング、さらにフィジカルAI（もしくはエンボディドAI）の実現に向けたセンシング／制御を支えるIoTエリアネットワークについて、関連団体と協調して最適な接続形態を早期に規格化。ユーザ利便と保守性を軸に、故障要因の特定まで一気通貫で管理可能な相互接続性を担保（例：JJ-300.00/G.9973、Y.4409〔旧Y.2070〕の考え方を継承）
② **IoTエリア特有ニーズの通信規格化**：無線／Ethernet／同軸など従来から検討してきた媒体に加え、**NTN接続**に対応

国内外の標準化団体等の動向

デジュール標準：ITU-T（SG15）でIoTエリアネットワークの検討が進み、**インターネットやクラウドまで含む枠組み**の勧告化も前進。**IEC**などでもIoT関連標準化が活発
フォーラム／業界標準：**W3C、IEEE、IIC、OCF、ECHONET、OPC UA**で、**LTE/5Gを用いたプライベートネットワーク**活用など、新しい動きが拡大中



凡例

→ アップストリーム（寄書審議等）

- - - → ダウンストリーム（国内標準作成等）

↔ 連携

中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	IoTエリアネットワーク専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	① タイムリーな既存TRの改定や新規作成を実施 ② IoT推進フォーラムの技術・標準化分科会等との連携継続 ③ SG15合同アップストリーム会合、およびIoT・スマートシティ専門委員会会合に参加し、アップストリーム活動と情報共有実施 ④ NW到達性が低いエリアのセンサ情報収集をめざしたNTNの利用ガイドライン策定に向けた検討
関連する専門委員会または外部組織とその内容	・IoT・スマートシティ専門委員会: 当専門委員会で検討した都市インフラモニタリングをITU-T SG20にて勧告化作業を実施 ・信号制御専門委員会:2030年を見据えた将来網検討 ・AI活用専門委員会:2030年を見据えた将来網検討 ・セキュリティ専門委員会:IoTセキュリティに関する連携 ・Network Vision専門委員会:2030年を見据えた将来網検討

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数			
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG15	ITU-T SG15 課題3（Q3）報告書（様式7）資料作成	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	JJ-300.20（第3版：改訂）	JJ-300.10（第2.4版：改訂） 第153回標準化会議で可決	JJ-300.20の改訂なし
	TS/TR/SR	0件/1件/0件 ・TR-1082（第5版：改訂）	0件/1件/0件 ・TR-1092（第2版：改訂） ・TR-1082（第6版：改訂）	
③ ダウンストリーム	数	TS:　回 TR:　回	TS制定:0回 TR制定:0回	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	・IoTエリアネットワーク関連の技術/標準化動向に関するセミナー開催（2025/7予定）	TTCセミナー「未来につなぐNTNの可能性 ～自然災害に強い安心な世界へ～」を主催（2025/8/1） TTC・SPEC共催セミナー（2026/2/19）	
	記事投稿、講演会	・TTCレポート2件（セミナー報告1件、TTC標準紹介1件）	TTCレポート2件（セミナー報告1件、TTC標準紹介1件）	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	IoTエリアネットワーク専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	① タイムリーな既存TRの改定や新規作成を実施 ② IoT推進フォーラムの技術・標準化分科会等との連携継続 ③ SG15合同アップストリーム会合、およびIoT・スマートシティ専門委員会会合に参加し、アップストリーム活動と情報共有実施 ④ NW到達性が低いエリアのセンサ情報収集をめざしたNTNの利用ガイドライン策定に向けた検討
新テーマ	スマートメータ、橋梁・道路監視センサ等を利用したインフラモニタリングに加え、さらにフィジカルAIの実現に向けたセンシング／制御を支えるIoTエリアネットワークについて、関連団体と協調した最適な接続形態を検討
関連する専門委員会または外部組織とその内容	・IoT・スマートシティ専門委員会: 当専門委員会で検討した都市インフラモニタリングをITU-T SG20にて勧告化作業を実施 ・信号制御専門委員会:2030年を見据えた将来網検討 ・AI活用専門委員会:2030年を見据えた将来網検討 ・セキュリティ専門委員会:IoTセキュリティに関する連携 ・Network Vision専門委員会:2030年を見据えた将来網検討

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数		-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG15		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	JJ-300.20（第3版:改訂）		
	TS/TR/SR	0件/1件/0件 ・TR-1082（第7版:改訂）	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS:　回 TR:　回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	・IoTエリアネットワーク関連の技術/標準化動向に関するセミナー開催（2026/7予定）		
	記事投稿、講演会	・TTCレポート2件（セミナー報告1件、TTC標準紹介1件）		

伝送網・電磁環境専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	伝送網・電磁環境専門委員会	1/3

企画戦略委員	張 亮（ソフトバンク）	登録委員数	44人(4グループ)7社
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長:村上誠（NTT）、副委員長:吉兼昇(KDDI)	担当するSG・WP等	ITU-T SG15 WP3, ITU-T SG5 WP1
活動の目的・意義 ・めざすゴール	5GやIoT、ビッグデータ解析と人工知能等の今後のアプリケーション進化とともに激増する通信トラフィックと多様化するサービス需要に対応するための大容量、柔軟かつ高信頼な基盤網を維持、発展させるための技術に関する国際標準化提案と国際動向と整合する国内標準化活動を先導するためにITU-T SG15 WP3(伝送網のアーキテクチャ、管理・制御と論理インタフェース技術)およびITU-T SG5 WP1(情報通信装置のEMC*技術)を中心に活動。 • AI進展に対応するデータセンタ網、センシング融合による通信網高機能化等の進展に寄与する国際標準化と国内標準化推進。 ＊ ElectroMagnetic Compatibility（電磁両立性: 電磁妨害波の影響と耐性）	別紙	
活動する上での課題 （人材面や運用面での課題を含む）	多種多様な大容量情報通信サービスを支える基盤ネットワーク技術に関わるため、サービス、他レイヤに及ぶ幅広い動向把握および他標準化団体の効率的情報共有と連携。 基盤ネットワークの特性上大容量情報通信サービスを、低コストで安定に確保するための長期的議論継続が重要である一方、サービス系に比較して直接目立ちにくい分野のため参加者増による活発化と活動顕在化の施策。		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	下記項目における国際動向調査・情報共有に基づき、ITU-T SG15/5及びIEC/CISPR(国際無線障害特別委員会)国際標準化推進とTTC標準文書作成を進める。 【SWG1301】Transport SDN等の次期伝送網アーキテクチャ及び装置管理制御技術 【SWG1302】大容量、高品質化のための超高速(800G/1.6T)OTNインタフェース及び高精度時刻・位相同期技術等、Beyond5G/6G及びデータセンタ大容量化を支える伝送網技術 【SWG1305】大型・大電力容量通信システムのEMC試験法及び近年重要性が高まっているソフトエラー対策の国内外での認知度向上のための普及展開と認証方法等		
国内外の標準化団体等の動向	【SWG1301,SWG1302】ITU-T SG15において超高速Ethernetに対応するための1.6T級OTN伝送の議題が活発化、さらにそれ以上の高速化も視野に入れIEEE802.3やOIF、OpenROADM等と連携して議論している。SDNを含めた光伝送網統合アーキテクチャとAI/機械学習適用による運用高度化・自律化の議論も活発化、情報/データモデル等の装置管理・制御に関する議論はYANGモデルについてIETFと連携している。IMT-2030モバイルに加えてデータセンタ網への適用を想定した高精度同期網技術に関してIEEE 1588WG、OPC(Open Compute Project)等と議論し、将来の超高精度光原子時計同期網等の新たな課題の検討を開始している。 【SWG1305】ITU-T SG5において広帯域、IoTサービス普及に伴う通信装置等の電磁放射、耐性、電磁波セキュリティ規格、過電圧・接地・電気安全等が議論されている。大型・大電力容量化通信システムのEMC試験法について及びIEC/CISPRへの参加とTTC標準化を進めている。 放射線による通信装置の粒子放射線影響(ソフトエラー)対処に関する国際標準化(2015年度より開始)は概要編，対策設計法、試験法、要求条件、評価法等一連の標準化が進捗し、TTC標準を制定している。また、CIAJでは、2022年に通信装置のソフトエラーガイドラインを制定、2023年にソフトエラー信頼性登録(通信装置、試験設備)を開始、運用中である。		

伝送網・電磁環境専門委員会の標準化領域 (1/2)
(ITU-T SG15 WP3)

TTC Telecommunication Technology Committee

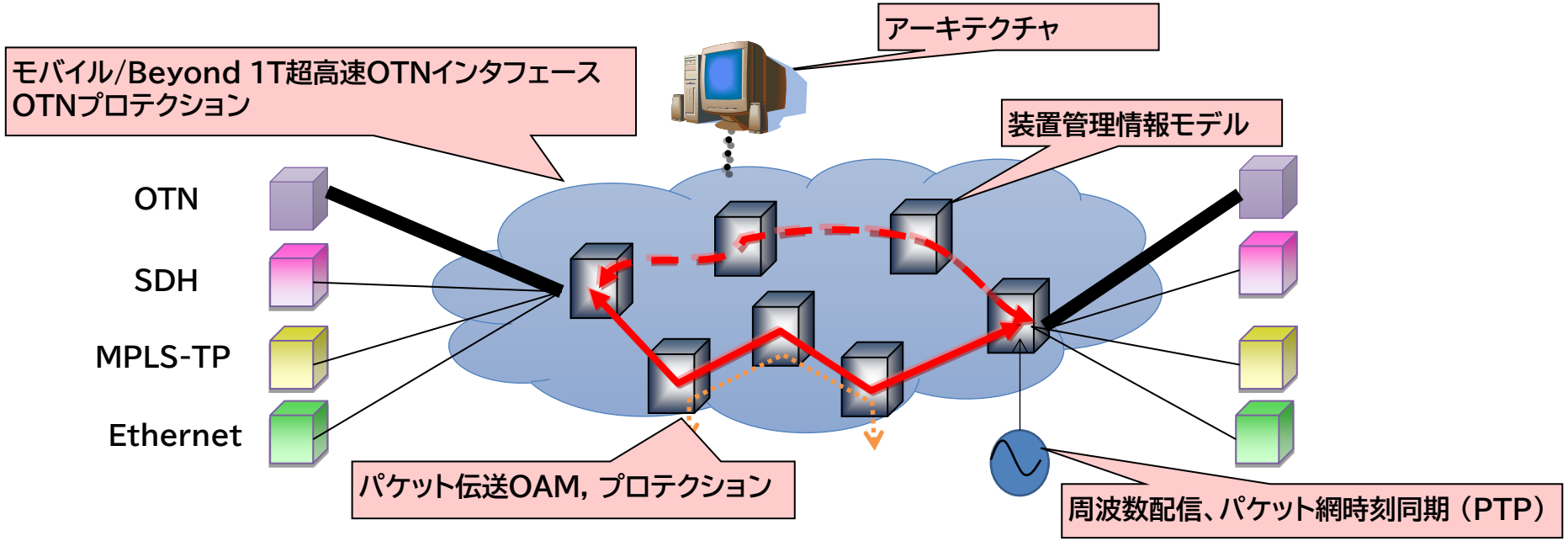
ITU

伝送網・電磁環境専門委員会（WG1300）

- SWG1301:
  装置機能・管理SWG
- SWG1302:
  多重分離インタフェースと網同期SWG

ITU-T SG15 WP3

- 課題10: パケットベース伝送網のインタフェース、相互接続、OAM及び装置機能
- 課題11: 伝送網の信号構造、インタフェース、装置機能および相互接続
- 課題12: 伝送網アーキテクチャ
- 課題13: 網同期と時刻配信
- 課題14: 伝送装置の管理と制御



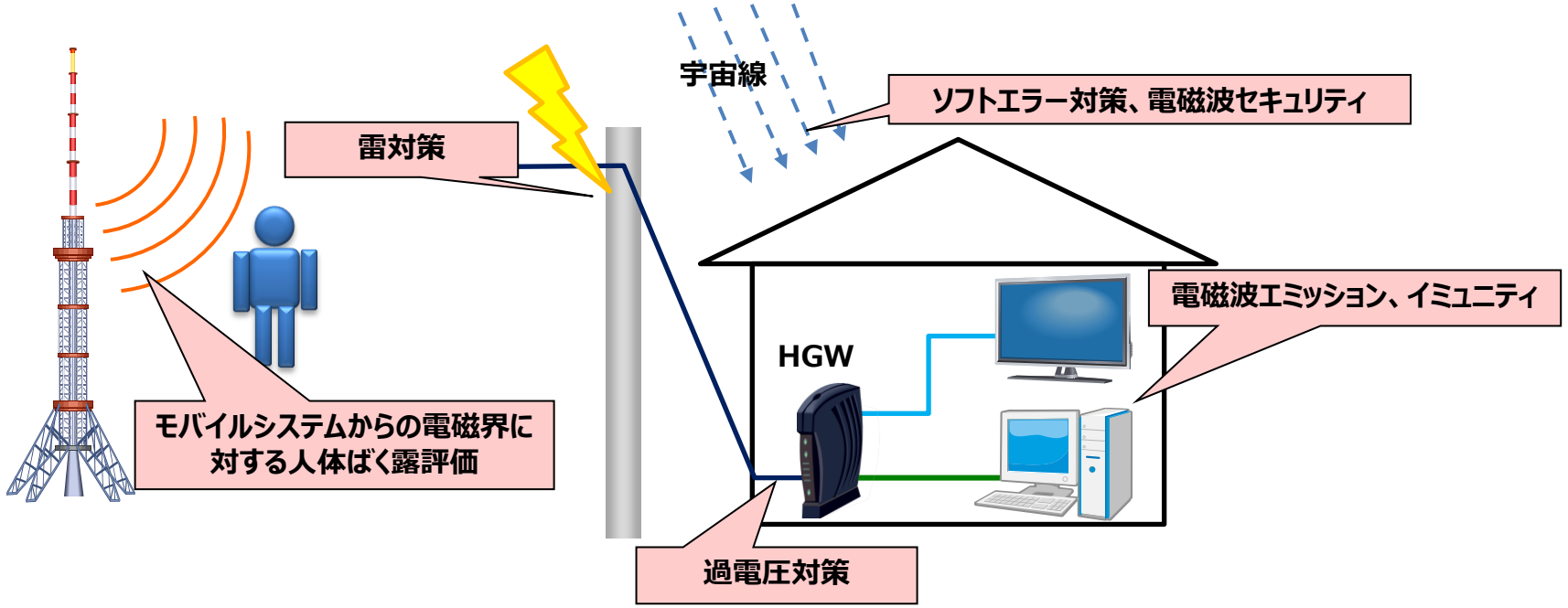
伝送網・電磁環境専門委員会の標準化領域 (2/2)
(ITU-T SG5 WP1)

伝送網･電磁環境専門委員会（WG1300）

SWG1305:
情報通信装置のEMC･ソフトエラー

ITU-T SG5 WP1

- 課題1: ICTシステムの電気的な防護、信頼性、安全およびセキュリティ
- 課題2: 雷および他の電気的事象に対する装置やデバイスの防護
- 課題3: デジタル技術に関する電磁界に対する人体ばく露
- 課題4: ICT環境におけるEMC問題



中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	伝送網・電磁環境専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	【SWG1301】トランスポートネットワークの光メディア層の一般的な機能アーキテクチャおよびネットワーク要素（NE）の管理要件と情報モデルのTTC標準化 【SWG1302】Beyond 1T級高速OTN及び次期高精度時刻同期関連の国際標準動向情報共有と標準化推進、Beyond 5G/6Gを支える伝送網に関するTTC標準化（Flexible OTN等） 【SWG1305】通信システム（アグリゲーション装置）の設置状態でのエミッション確認方法のTTC標準化
関連する専門委員会または外部組織とその内容	光ファイバ伝送専門員会、アクセス網専門委員会との光伝送物理層仕様に関する連携

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数		-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG15本会合 WP3（2025年3月、2025年10月） ITU-T SG5本会合 WP1（2025年6月、10月）	ITU-T SG15本会合 WP3（2025年3月、2025年10月） ITU-T SG5本会合 WP1（2025年6月、10月）	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	ー		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	5件 【SWG1301】 ・JT-G7703（ASONアーキテクチャ）新規（2025/1Q） ・JT-G807（光メディア層の一般的な機能アーキテクチャ（仮））新規（2025/3Q） ・JT-G876（光メディアネットワークの管理要件と情報モデル（仮））（2025/4Q） 【SWG1302】 ・JT-G709.5（フレキシブルOTN短距離インタフェース）新規（2024/4Q） 【SWG1305】 ・JS-CISPR TR 16-2-5（設置場所試験法）（2025/4Q）	4件 【SWG1301】 ・JT-G7703（自動切り替え光ネットワークのアーキテクチャ）新規（2025/3Q） ・JT-G807（光メディア層の一般的な機能アーキテクチャ）新規（2025/4Q） 【SWG1302】 ・JT-G709.5（フレキシブルOTN短距離インタフェース）新規（2025/4Q） 【SWG1305】 ・JS-CISPR TR 16-2-5（設置場所試験法）新規（2025/4Q）	
④ プロモーション 普及推進	セミナー			
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告【SWG共通】	TTCレポート vol.40 No1: 標準類制定状況（伝送網・電磁環境専門委員会） TTCレポート vol.40 No2: 標準類制定状況（伝送網・電磁環境専門委員会） TTCレポート vol.40 No2:ITU-T SG5（Environment, climate action, circular economy and electromagnetic fields）第1回会合	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	伝送網・電磁環境専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	【SWG1301】光伝送網物理層の一般的機能アーキテクチャおよびネットワーク要素（装置）の管理要件と情報モデルのTTC標準化 【SWG1302】Beyond 1T級高速OTN及び次期高精度時刻同期関連の国際標準動向情報共有と標準化推進、Beyond 5G/6Gを支える伝送網に関するTTC標準化（Flexible OTN等） 【SWG1305】通信システム（アグリゲーション装置）の設置状態でのエミッション確認方法のTTC標準化
新テーマ	• AI対応データセンタに関する光伝送網技術（アーキテクチャ、伝送容量、光スイッチング、送受信器、電力消費最適化、時刻同期等） • 超高精度光原子時計とその同期網応用
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 光ファイバ伝送専門員会、アクセス網専門委員会との光伝送物理層仕様に関する連携

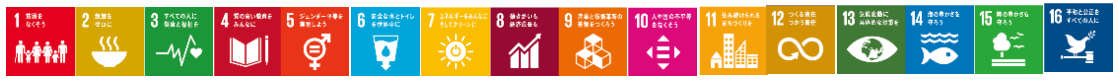
主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数		-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG15 WP3（2026年6月、11月、2027年2月） ITU-T SG5 WP1（2026年6月）		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	3件 【SWG1301】 ・JT-G876（光メディアネットワークの管理要件と情報モデル（仮））新規（2026/2Q） 【SWG1302】 ・TR-OTN（OTN技術文書）新規（2026/4Q） 【SWG1305】 ・JS-CISPR TR 16-×-×（ラピッドエミッションチェック試験法）新規（2026/4Q）	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー			
	記事投稿、講演会			

一般社団法人
情報通信技術委員会

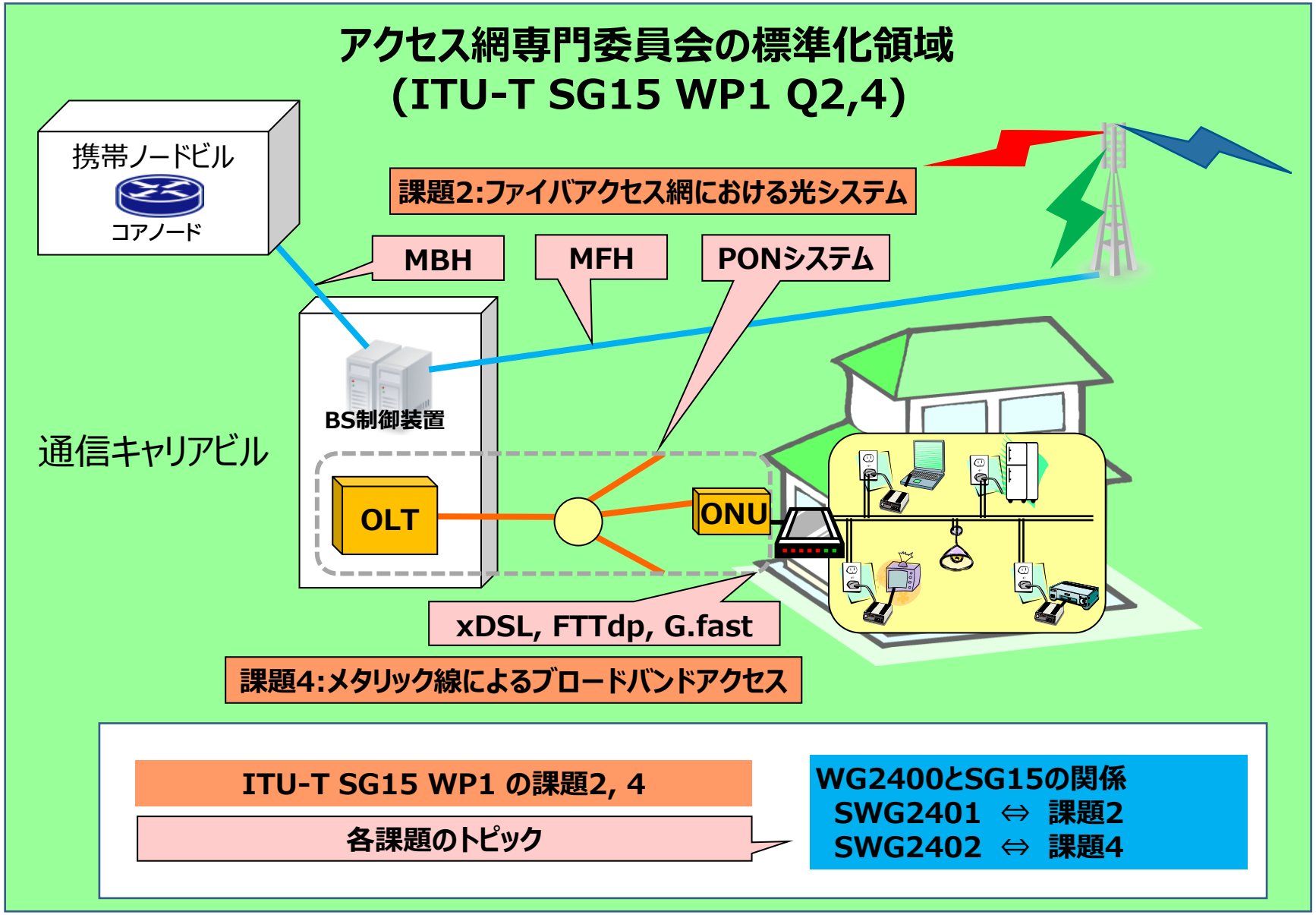
アクセス網専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	アクセス網専門委員会	1/3

企画戦略委員	企画戦略委員： 張　　亮（ソフトバンク株式会社）	登録委員数	60人
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長： 岡崎 浩治（ソフトバンク株式会社） 副委員長： 原　孝成（ノキアソリューションズ＆ネットワークス合同会社）	担当するSG・WP等	ITU-T SG15 WP1
活動の目的・意義 ・めざすゴール	• 光アクセス関連の標準化動向（Q2/SG15、BBF等）を継続把握し国内へ展開 • TR（技術報告書）／セミナー等で動向を可視化・共有 • 50G/100G+、セキュリティ・省電力、TDM-PON等の重点領域を整理 • FTTdp（Fiber To The distribution point）などの光ファイバとメタリック回線のハイブリッドアクセス網や将来の移動体網のRAN（無線アクセスネットワーク）のための光アクセスアプリケーション技術の検討。	活動体制の図解 （専門委員会/SWGと対応するSG/技術トピックス、関連する団体等） 別　紙	
活動する上での課題 （人材面や運用面での課題を含む）	• 100G+（G.suppl.VHSP）はAgreement到達も文書未公表で内容整理が難しい • 技術テーマの増加（特にAI）に伴い、継続ウォッチとアウトプットの優先度付けが必要		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	【SWG2401　光アクセス網関連】 • 次世代移動体網のアクセス網構築に貢献するため、次世代移動体網のフロントホール/バックホール（MFH/MBH）におけるアクセス網の課題に関する調査を行う。今後、必要に応じてITU-T SG15/Q2で議論されている100G超の次世代光アクセスシステムへのアップストリーム活動を行なう。 【SWG2402 DSL関連】 • xDSL、G.fast、G.mgfastの技術動向の調査を継続し、必要に応じて活動報告会などを開催し報告する。また、スペクトル管理標準に関しては新たな課題の出現時に個別に対応する。		
国内外の標準化団体等の動向	【SWG2401 光アクセス関連】 次世代の光アクセスシステムについては、5G移動体網のMFH/MBHに適用するシステムの議論が行われ、ITU-T SG15では一波長当たり50GPONから100G超級のPONシステム、低遅延化技術、高信頼化技術、光ファイバ無線（G.RoF）などの検討が進められている。ITU-T Q2/15へのG.Sup.VHSPの提案に関しても対応する。 【SWG2402 DSL関連】 ADSLやVDSLの国際規格としては、ITU-TにおいてG.fast、G.mgfastの検討が活発であり、ホームネットワーク関連のサービスの物理レイヤーについての協議が実施されている。		

別紙


アクセス網専門委員会の標準化領域
(ITU-T SG15 WP1 Q2,4)
携帯ノードビル
コアノード
課題2:ファイバアクセス網における光システム
MBH
MFH
PONシステム
BS制御装置
通信キャリアビル
OLT
ONU
xDSL, FTTdp, G.fast
課題4:メタリック線によるブロードバンドアクセス
ITU-T SG15 WP1 の課題2, 4
各課題のトピック
WG2400とSG15の関係
SWG2401 ⇔ 課題2
SWG2402 ⇔ 課題4

中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	アクセス網専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	【SWG2401】 • アクセス網を媒体に関係なくメタル、光ファイバによる無線区間以外の有線ネットワーク全般ととらえ、特に次世代移動体網のフロントホール/バックホールにおけるアクセス網の問題点を検討し、必要に応じてITU-T SG15 Q2で議論されている次世代光アクセスシステムへのアップストリーム活動の実施。 • G.hspやG.suppl文書で移動体網の伝送に光アクセスシステムを活用するための個別テーマでの検討が進んでおり、その検討状況について調査し、寄書を行った。 【SWG2402】 • ハイブリッドアクセス網SWGでは、G.fast 等 の新規技術の調査するとともに海外の導入事例等の調査継続した。
関連する専門委員会または外部組織とその内容	5G及び6Gとの連携を深めるために3GPP専門委員会及び光ファイバ伝送専門委員会の活動を考慮した対応を実施した。

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	ITU-T SG15 WP1 年2回予定（各会合で1件以上）	ITU-T SG15 WP1 (2025年10月):2件 ITU-T SG15 WP1 (2026年3月):〇件	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG15 WP1 年2回の会合へ参加予定	2025年10月に実施され、2026年3月に予定しており、2月に専門委員会を実施予定	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/1件/0件 新たな技術レポートの作成	0件/1件/0件 TR-1110「2023～2025年の光アクセス関連技術の標準化動向に関する技術報告書」	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	100G超のアクセス技術の動向についてセミナーを実施することを検討したい。	今年度は見送りをした	
	記事投稿、講演会			

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	アクセス網専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	【SWG2401】 光ファイバによる無線区間以外の有線ネットワーク全般ととらえ、特に次世代移動体網のフロントホール/バックホールにおけるアクセス網の問題点を検討し、必要に応じてITU-T SG15 Q2で議論されている次世代光アクセスシステムへのアップストリーム活動の実施。 G.hspやG.suppl文書で移動体網の伝送に光アクセスシステムを活用するための個別テーマでの検討が進んでおり、その検討状況について調査し、寄書を実施。 PONシステムのセキュリティ、省電力化やモバイルフロントホールのためのTDM-PONなどが検討おり、光アクセスシステムでのAIのユースケースの検討が進展 【SWG2402】 ハイブリッドアクセス網SWGでは、G.fast 等 の新規技術の調査するとともに海外の導入事例等の調査継続。また、スペクトル管理標準に関しては新たな課題の出現時は個別に対応。
新テーマ	• 光アクセスシステムにおけるAI活用（ユースケース検討） • NTTメタリック外線の2035年サンセットへ、EMI評価と撤去・資源化ガイドの標準化を推進
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 6Gの検討状況をを確認してアクセス網について検討を実施するために、3GPP専門委員会及び光ファイバ伝送専門委員会との連携を強化 • AI活用（ユースケース）を検討するために「AI標準アドホックグループ」への参加などを検討

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	ITU-T SG15 WP1 年2回予定（各会合で1件以上）	-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG15 WP1 年2回の会合へ参加予定		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/1件/0件 Q2/SG15やBBFでの検討状況を見ながら、標準化動向に関する技術報告書	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS：　回 TR：　回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	G.suppl.VHSPの状況でセミナーを2026年に実施		
	記事投稿、講演会			

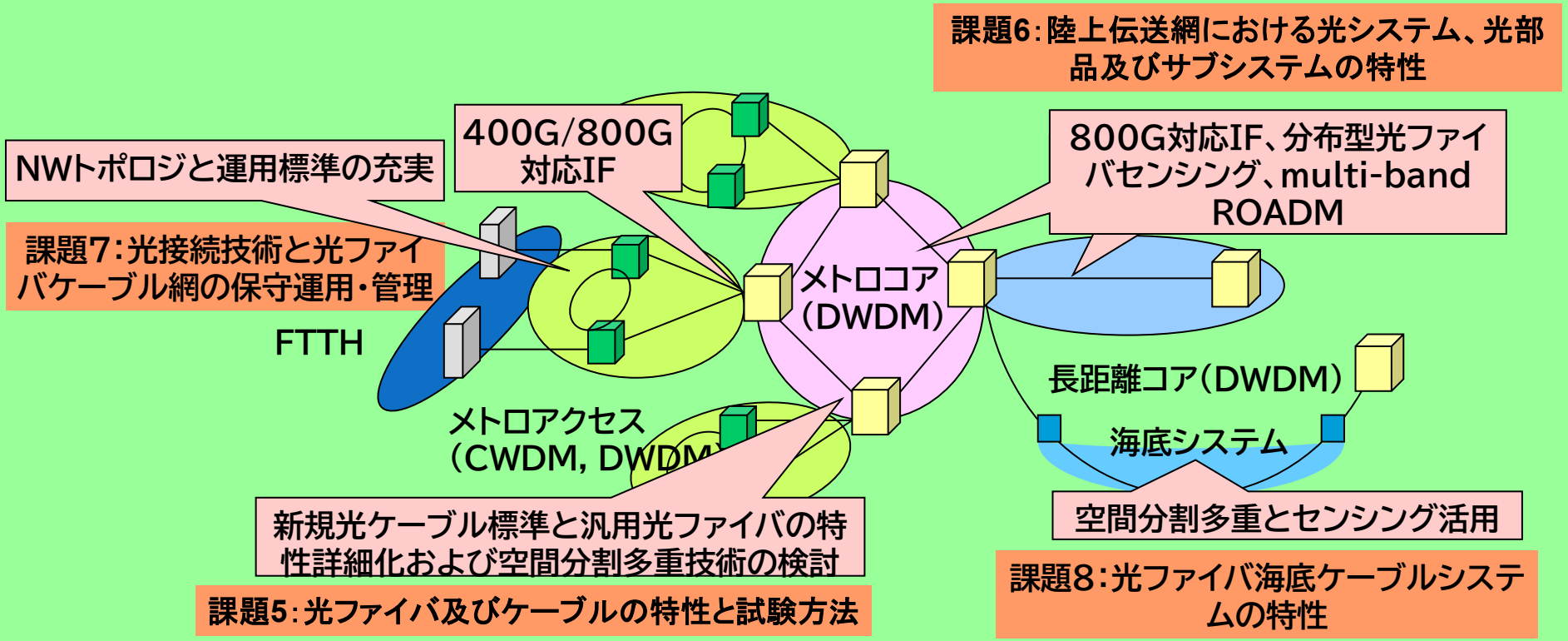
光ファイバ伝送専門委員会

中期標準化戦略（概要と目的）

専門委員会・AG名	光ファイバ伝送専門委員会	1/3

企画戦略委員	張 亮（ソフトバンク）	登録委員数	65人（3グループ）9社
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダ	委員長：松井隆（NTT）、副委員長：吉兼昇（KDDI） SWG2001リーダー：江藤基比古（富士通）、SWG2002リーダー：松井隆（NTT）	担当するSG・WP等	ITU-T SG15 WP2
活動の目的・意義 ・めざすゴール	• 【SWG2001】B5G/6Gを支える400Gb/s超インターフェースの標準化議論の推進、分布型光ファイバセンシング技術の新規標準化による市場牽引が期待される。 • 【SWG2002】光通信の国際的な普及に伴い、光線路基盤の多様化と、安全かつ効率的な保守運用の重要性が益々高まっている。また、光ファイバケーブルの特性詳細化ならびに空間分割多重光ファイバケーブル技術の新規標準化による市場牽引も期待される。	活動体制の図解 （専門委員会/SWGと対応するSG/技術トピックス、関連する団体等） 別紙参照	
活動する上での課題 （人材面や運用面での課題を含む）	光通信先進国として、既存設備の利活用および新規技術の立ち上げの両面で標準化活動におけるリーダーシップを維持・強化する必要がある。		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	【SWG2001】 • 400Gb/s、800Gb/s級インターフェースの標準化議論推進によるB5G/6GNW基盤の確立 • 分布型光ファイバセンシング技術の標準文書拡充による市場牽引 【SWG2002】 • 既存光ファイバ標準（勧告G.65x）の特性詳細化による有効活用の促進 • 新規要求条件に基づくケーブル勧告の制定と光線路保守運用標準の充実 • 光海底ケーブルのセンシング応用に対応したシステム標準の整備 • IEC連携に基づく光線路技術標準の充実 • 空間分割多重光ファイバケーブルの標準化ロードマップ策定と新規標準化提案による市場牽引 【SWG共通】 • ダウンストリーム活動によるITU-T標準のTTC文書へのタイムリーな反映 • タイムリーな技術調査と調査結果のアップストリーム活動への反映		
国内外の標準化団体等の動向	• ITU-T WP2/SG15ではB5G/6Gを見据えた新規インターフェース標準と、光線路設備の充実と運用の効率化に関する議論が継続的に行われている • 光ファイバ、光ケーブル、光部品の標準化活動ではIEC TC86と継続的に協調活動を実施し、特に空間分割多重技術の標準整備についてリエゾン等を通じ密に連携している • IEC TC86ではマルチコア光ファイバコネクタ標準、SDM光増幅器の議論も進められている		

光ファイバ伝送専門委員会の標準化領域
(ITU-T SG15 WP2)



ITU-T SG15 WP2の所掌課題

各課題のトピック

WG2000とSG15の関係

- SWG2001 ⇔ 課題6
- SWG2002 ⇔ 課題5･7･8

中期標準化戦略（2025年度重点取り組みと活動報告）

専門委員会・AG名	光ファイバ伝送専門委員会	2/3

新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	• G.Suppl.87（SDMファイバのロードマップと標準化項目）、L.10xシリーズ（各種光ファイバケーブル）、L.405（FTTx設備用コネクタ付き配線コンポーネント）、G.672（多方路再構成可能光挿入/分岐多重装置の特性）、G.698.2（単一チャネルインタフェースを有する光増幅DWDMアプリケーション）、G.681（分布型光ファイバセンシングのインターフェイス）の新規制改定、並びに関連寄書の投稿 • JT-G657 （低曲げ損失シングルモードファイバケーブル）改訂、およびJT-G671（光部品とサブシステム）新規制定 • 物理層IF標準に関するセミナー開催
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 伝送網電磁環境およびアクセス網委員会・物理層IFの連携 • IEC TC86国内委員・物理層標準の連携

主な活動項目	概況指標	2025年度目標（当初計画時）	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-	16件	
	外部会合への 参加・連携状況	-ITU-T SG15 WP2 （2025年10月） -IEC TC86国内委員との連携	-ITU-T SG15 WP2（2025年10月） -ITU-IEC Joint Workshopで日本から2名講演を実施	
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件	0件	
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	JT制改訂：2件 ・JT-G657改訂（2025/3Q） ・JT-G671新規制定（2025/3Q）	TR改訂：1件 ・TR-GSup39改訂（2025/4Q）	・JT-G657については、元勧告ITU-T G.657が早期改訂見込みとなったため見送り、他の文書に着手
④ プロモーション 普及推進	セミナー	TTCセミナー ・物理層IF標準の動向と展望など （2025/3Q）	TTCセミナー ・分布型光ファイバセンシング標準化動向（2025/1Q） ・物理層IF標準の動向と展望（2026/1Q）	
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告	TTCレポート活動報告	

中期標準化戦略（2026年度重点取り組みと活動予定）

専門委員会・AG名	光ファイバ伝送専門委員会	3/3

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	• G.smmcf（G.652互換MCF）、G.csmcf（G.654互換MCF）、G.65xシリーズ（各種SMF）、L.341（電信柱および屋外架空設備の保守）、G.698.2（単一チャネルインタフェースを有する光増幅DWDMアプリケーション、並びに関連寄書の投稿（SG15、2026年1Q）
新テーマ	• JT-G650.2（シングルモードファイバケーブルの統計的、非線形パラメータの試験法）改訂、およびJT-G671（光部品とサブシステム）新規制定（2026/3Q予定） • 光線路標準に関するセミナー開催（2026/3Q）
関連する専門委員会または外部組織とその内容	• 伝送網電磁環境およびアクセス網委員会・物理層IFの連携 • IEC TC86国内委員・物理層標準の連携

主な活動項目	概況指標	2026年度目標（当初計画時）	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-	-	
	外部会合への 参加・連携状況	- ITU-T SG15 WP2（2026年6～7月） - IEC TC86国内委員との連携		
② ﾄﾞｷｭﾒﾝﾄ作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	JT制改訂：2件 ・JT-G650.2改訂（2026/1Q） ・JT-G671新規制定（2026/3Q）	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	TTCセミナー ・光線路標準の動向と展望など（2026/3Q）		
	記事投稿、講演会	TTCレポート活動報告		